

# ネット ワーク 通信

2015  
No.62  
春号

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 社会広聴アンケート .....               | 1  |
| 「第18回 生活者の“企業観”に関するアンケート」調査結果 |    |
| 企業と生活者懇談会 .....               | 13 |
| 鹿島建設(兵庫)                      |    |
| 日清製粉グループ本社(福岡)                |    |
| 生活者の企業施設見学会 .....             | 21 |
| 日本郵船歴史博物館                     |    |
| 講演会 .....                     | 22 |
| 「知らなかった放射線の話 ～低線量被ばくの誤解～」     |    |
| 東京大学医学部附属病院 中川 恵一氏            |    |
| 未来都市モデルプロジェクト現地報告・・・          | 24 |
| 「福島医療ケアサービス都市」                |    |
| 経済広報センターニュース .....            | 26 |
| ご意見・ご感想 .....                 | 29 |



一般財団法人

経済広報センター

# 「第18回 生活者の“企業観”に関するアンケート」調査結果

## 企業に対する信頼度が43%と4年ぶりに上昇 ～不測の事態への対応は一層の改善が求められる～

経済広報センターは、社会が企業をどのように見ているかを調査するため、1997年度から毎年「生活者の“企業観”に関する調査」を実施し、定点観測しています。

調査では、例年同様、「企業に対する認識」や「企業に対する信頼度」といった生活者の総合的な企業観のほか、「企業評価の際の情報源」や「企業評価の際の情報発信者の信用度」について聞き、企業評価に際して生活者がどのように情報を活用しているのかを調査しました。また今年度は、発生する企業不祥事を生活者がどのように認識しているかを確認するため、「企業不祥事の原因」や「企業不祥事の防止策」についても調査しました。

今回の調査結果では、企業に対する信頼度として、「信頼できる（信頼できる／ある程度）」という肯定的な評価が43%と4年ぶりに上昇しました。信頼感の理由として、多くの企業が「社会的責任を果たしている」「積極的に情報を公開している」「コンプライアンス機能の強化に努めている」「起こった問題に真摯に対応している」といった認識が見られ、ほかにも、「国際的に見た日本企業（の製品・サービス）の質」も信頼感の根拠になっていることが分かりました。同時に、これらのポイントは今後も一層の改善が求められている課題としても挙げられています。

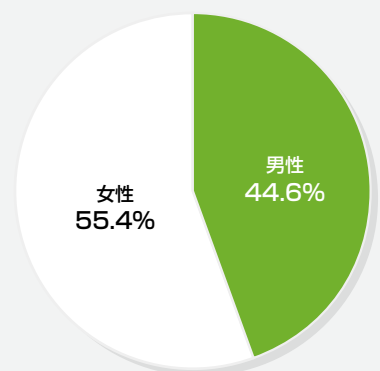
また、今回は「最近、興味・関心を持った企業活動」についても調査しました。より具体的な生活者の考えを感じていただけたと思います。

### 調査の概要

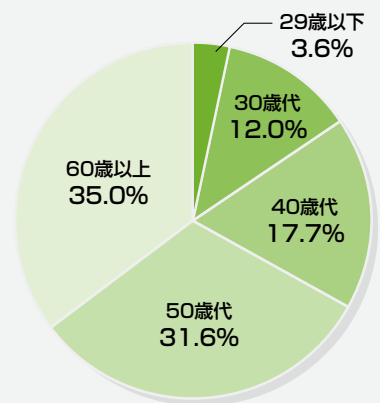
- (1) 調査名称：第18回 生活者の“企業観”に関するアンケート
- (2) 調査対象：eネット社会広聴会員 3104人
- (3) 調査方法：インターネットによる回答選択方式  
および自由記述方式
- (4) 調査期間：2014年10月23日～11月4日
- (5) 有効回答：1696人(54.6%)

### 回答者の属性

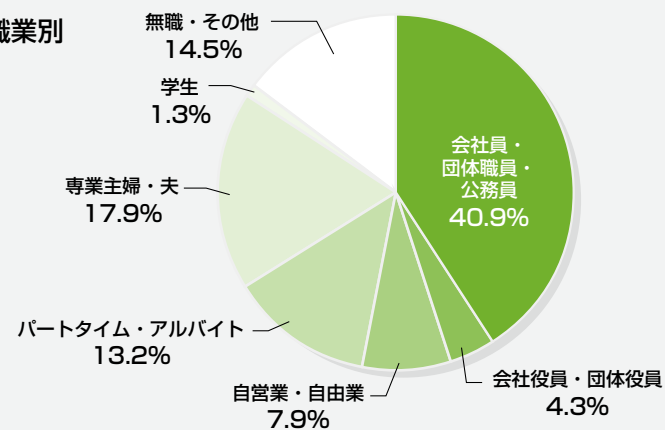
#### 性別



#### 世代別



#### 職業別



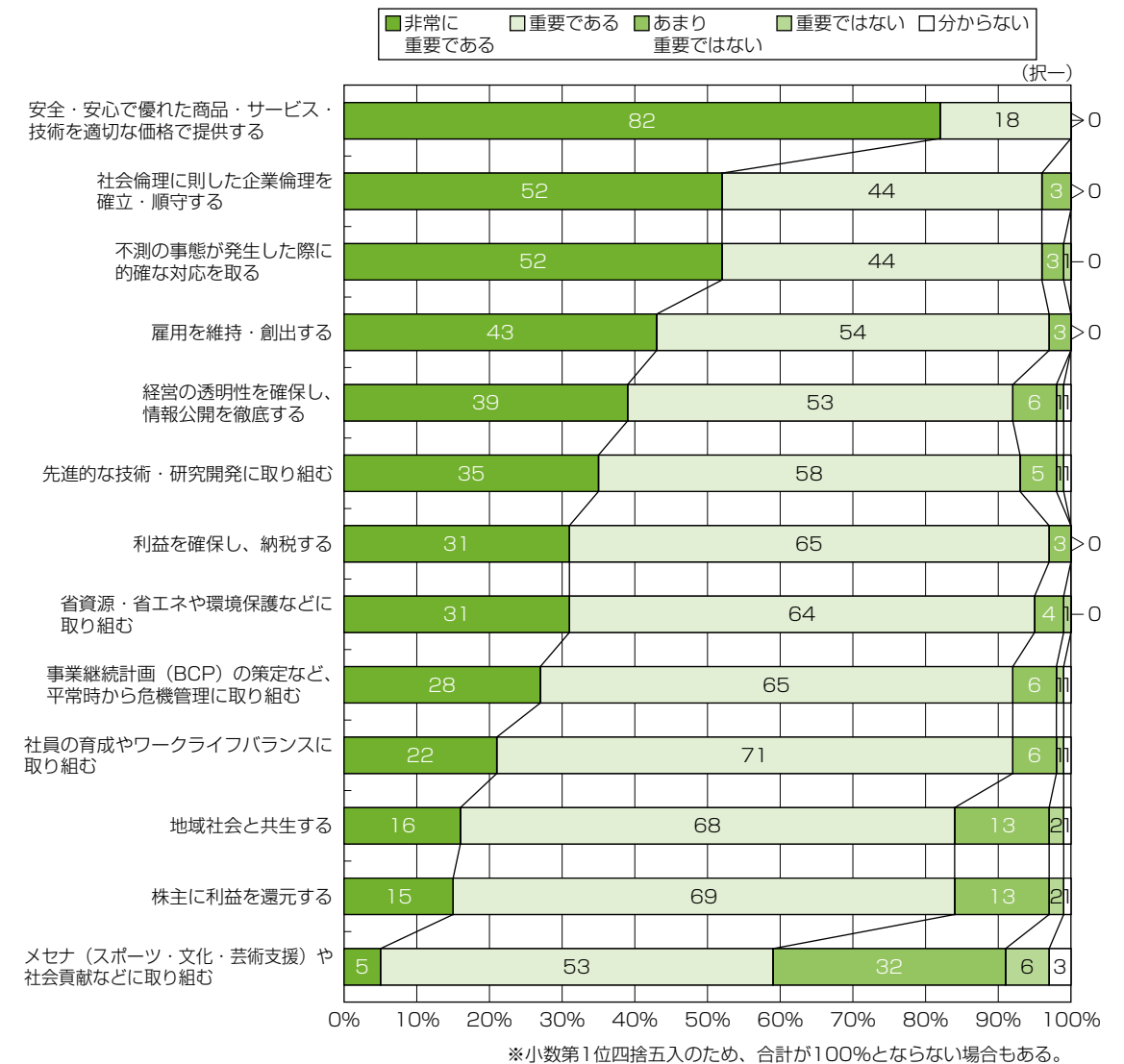
## 1 企業に対する認識

### (1) 企業の果たす役割や責任の重要度

#### Point

「安全・安心で優れた商品・サービス・技術を適切な価格で提供する」ことが、企業の果たす役割や責任として最重要視されている

#### 全 体



企業の果たす役割や責任の重要度を項目ごとに調査した。82%が「安全・安心で優れた商品・サービス・技術を適切な価格で提供する」ことが「非常に重要である」と回答しており、特に重要視されている。続いて「社会倫理に則した企業倫理を確立・順守する」（52%）、「不測の事態が発生した際に的確な対応を取る」（52%）の各項目で、「非常に重要である」が高い割合に上っている。

前回調査（2013年度）から大きな変化は見られない。



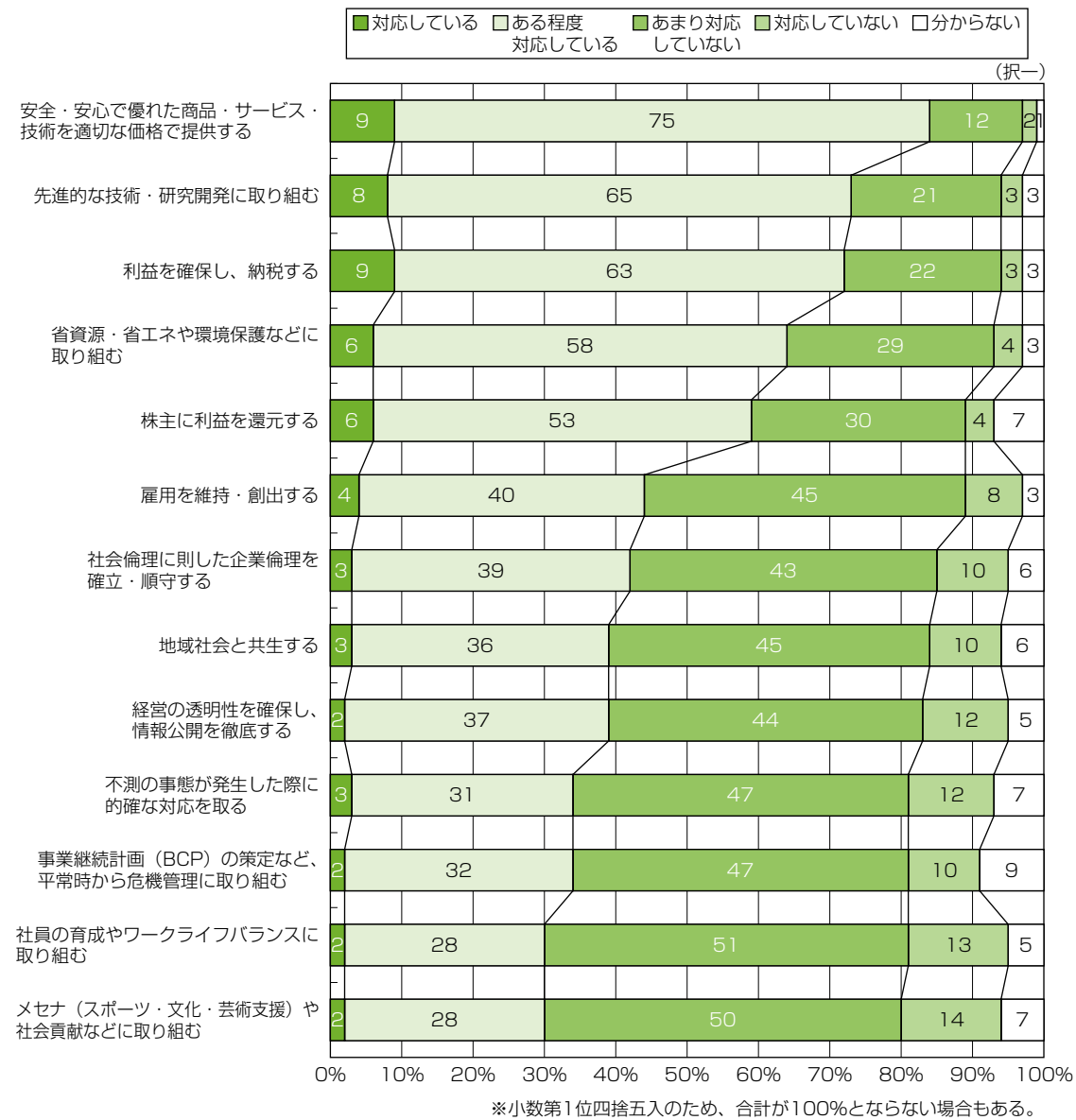
## (2)企業の対応状況

### Point

企業の商品・サービス・技術は高評価

企業倫理の確立・順守や情報公開への評価も前回調査よりアップ

#### 全 体



企業の果たす役割や責任について、企業がどの程度対応していると思うかを調査した。「安全・安心で優れた商品・サービス・技術を適切な価格で提供する」は「対応している」が9%、「ある程度対応している」が75%と、対応しているとの認識が8割を超えている（84%）。前回調査（2013年度）では、対応しているが78%（「対応している」8%、「ある程度対応している」70%）だったので、6ポイント増加している。

また、「対応している（対応している／ある程度）」が、「先進的な技術・研究開発に取り組む」（73%）、「利益を確保し、納税する」（72%）、「省資源・省エネや環境保護などに取り組む」（64%）で、6割を超える。

一方、「メセナ（スポーツ・文化・芸術支援）や社会貢献などに取り組む」（30%）、「社員の育成やワークライフバランスに取り組む」（30%）は、対応していると認識している生活者が3割程度。「対応していない（あまり／対応していない）」がともに6割を超える。

また、「社会倫理に則した企業倫理を確立・順守する」は「対応している（対応している／ある程度）」が42%で前回調査（2013年度34%）から、8ポイント上昇、「経営の透明性を確保し、情報公開を徹底する」も39%（2013年度31%）で、8ポイント上昇し、幾つかの項目で、企業の対応状況に対する評価の改善が見られる。

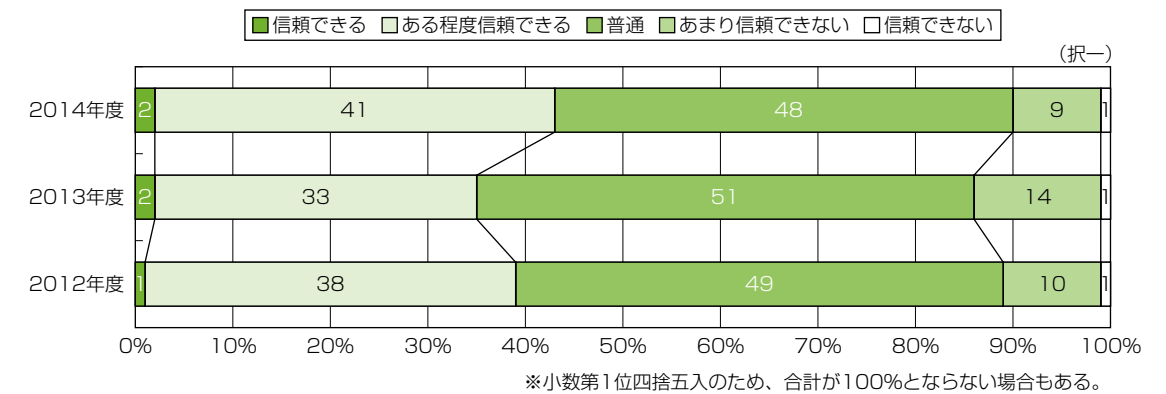
## 2

## 企業に対する信頼度

### Point

「信頼できる（信頼できる／ある程度）」が43%と4年ぶりに上昇

#### 年度別・全体



企業の社会的役割や責任などの観点から判断した企業に対する信頼度は、「信頼できる」が2%、「ある程度信頼できる」が41%と、生活者の43%が信頼感を示し、前回調査（2013年度）から8ポイント上昇し、4年ぶりに改善している（2010年度51%、2011年度43%、2012年度39%、2013年度35%）。

「あまり信頼できない」（9%）と「信頼できない」（1%）を合わせた否定的な評価は10%と、2013年度（15%）から5ポイント減少している。

#### 「信頼できる（信頼できる／ある程度）」理由

「信頼できる（信頼できる／ある程度）」理由としては、一部の企業で問題はあるものの「大半の企業は信頼できる活動をしている」との認識が多く見られる。品質や日本人の国民性などに言及し、日本企業であることを信頼のベースとしている意見も目立つ。

「不祥事が少なくなった」「不測の事態にもきちんと対応している」「情報開示に努めている」「社会的責任を果たしている」といった評価と同時に、それは「社会からの監視機能が強まっているから」「信頼されていなければ企業は存続できないから」という意見も多い。

#### 「信頼できない（あまり／信頼できない）」理由

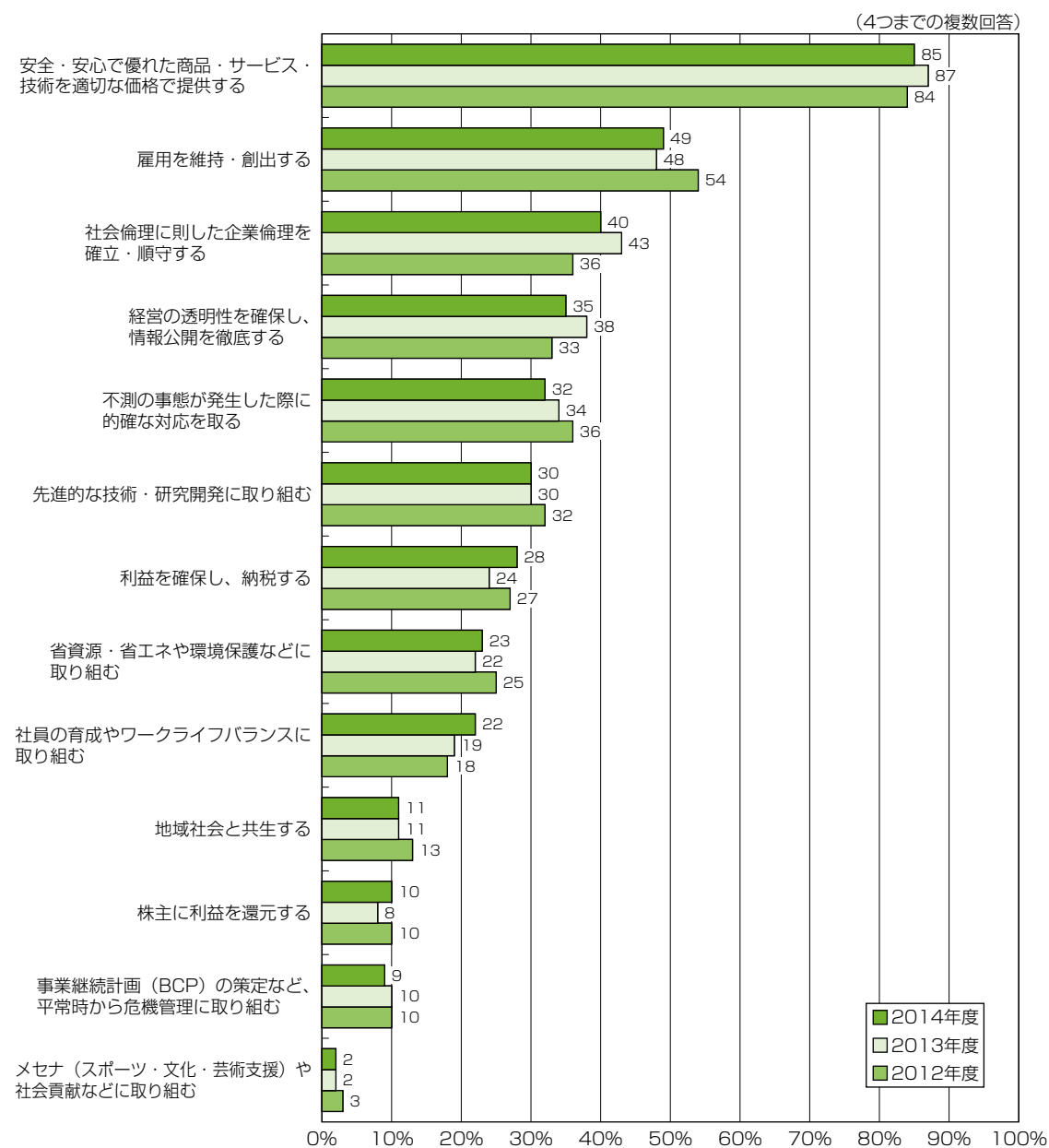
「信頼できない（あまり／信頼できない）」理由としては、「企業不祥事とその後の不十分な対応」が最も多く挙げられている。不祥事が減少したという意見もあるが「企業不祥事が後を絶たない」「説明責任を果たしていない」といった点が、生活者が不信感を抱く原因となっている。「利益・自社優先の体質」や日ごろの情報発信不足を含めた「経営の不透明性」を信頼できない理由とする意見も多く見られる。

## 3

## 企業が信頼を勝ち得るための重要事項

Point 「安全・安心で優れた商品・サービス・技術を適切な価格で提供する」が最重要

年度別・全体



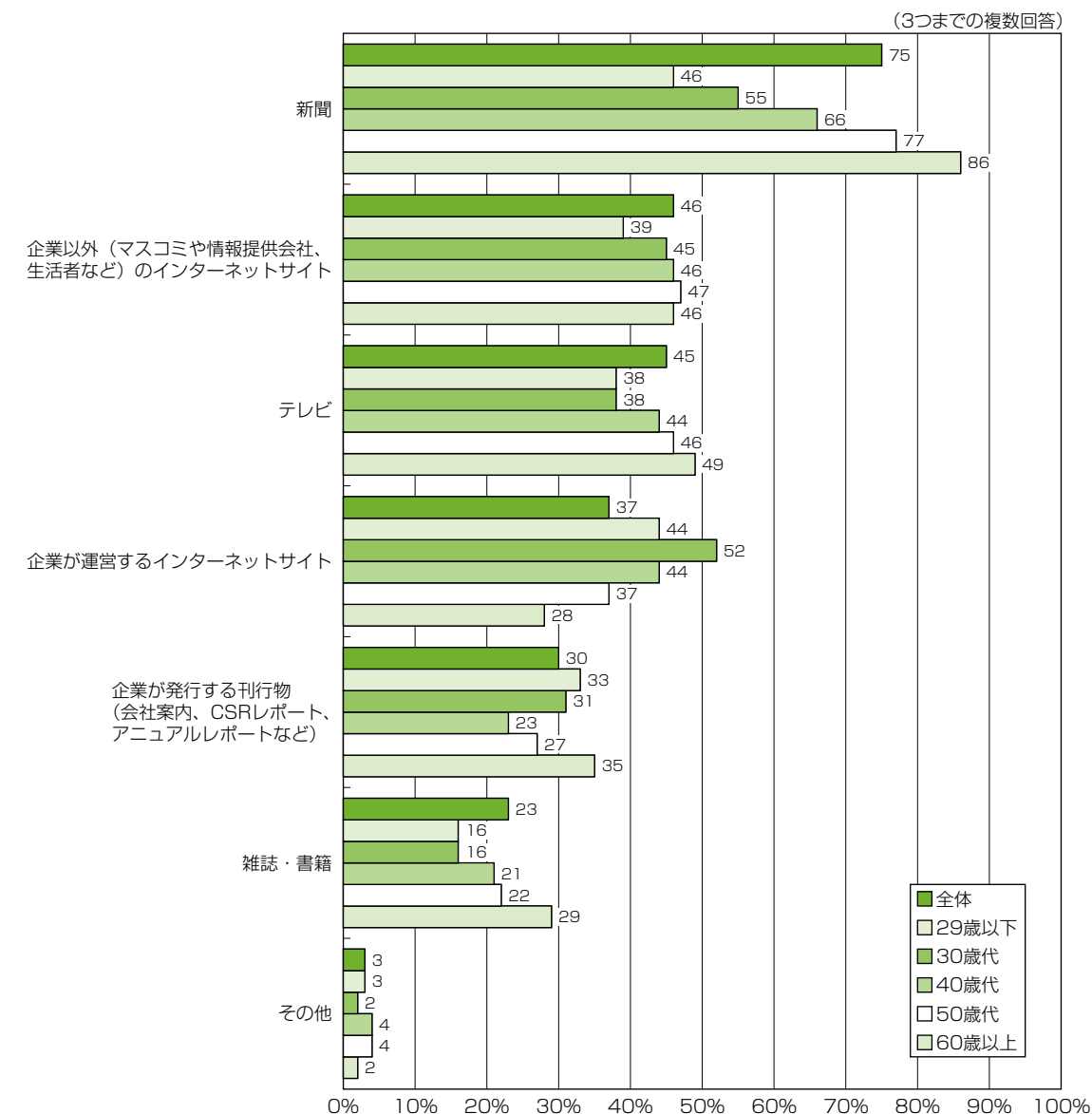
企業が社会からの信頼を今後さらに勝ち得ていくための重要事項としては、85%が「安全・安心で優れた商品・サービス・技術を適切な価格で提供する」と回答。次いで、「雇用を維持・創出する」が49%。以下、「社会倫理に則した企業倫理を確立・順守する」（40%）、「経営の透明性を確保し、情報公開を徹底する」（35%）、「不測の事態が発生した際に的確な対応を取る」（32%）、「先進的な技術・研究開発に取り組む」（30%）が、3割以上となっている。

## 4

## 企業評価の際の情報源

Point 企業を評価する際の情報源は、「新聞」に次いで「企業以外（マスコミや情報提供会社、生活者など）のインターネットサイト」

全体・世代別



企業評価の際の情報源としては、「新聞」が前回調査（2013年度84%）よりポイントを下げてきているものの75%と最も高い。次に「企業以外（マスコミや情報提供会社、生活者など）のインターネットサイト」（46%）、「テレビ」（45%）、「企業が運営するインターネットサイト」（37%）、「企業が発行する刊行物（会社案内、CSRレポート、アニュアルレポートなど）」（30%）、「雑誌・書籍」（23%）と続いている。

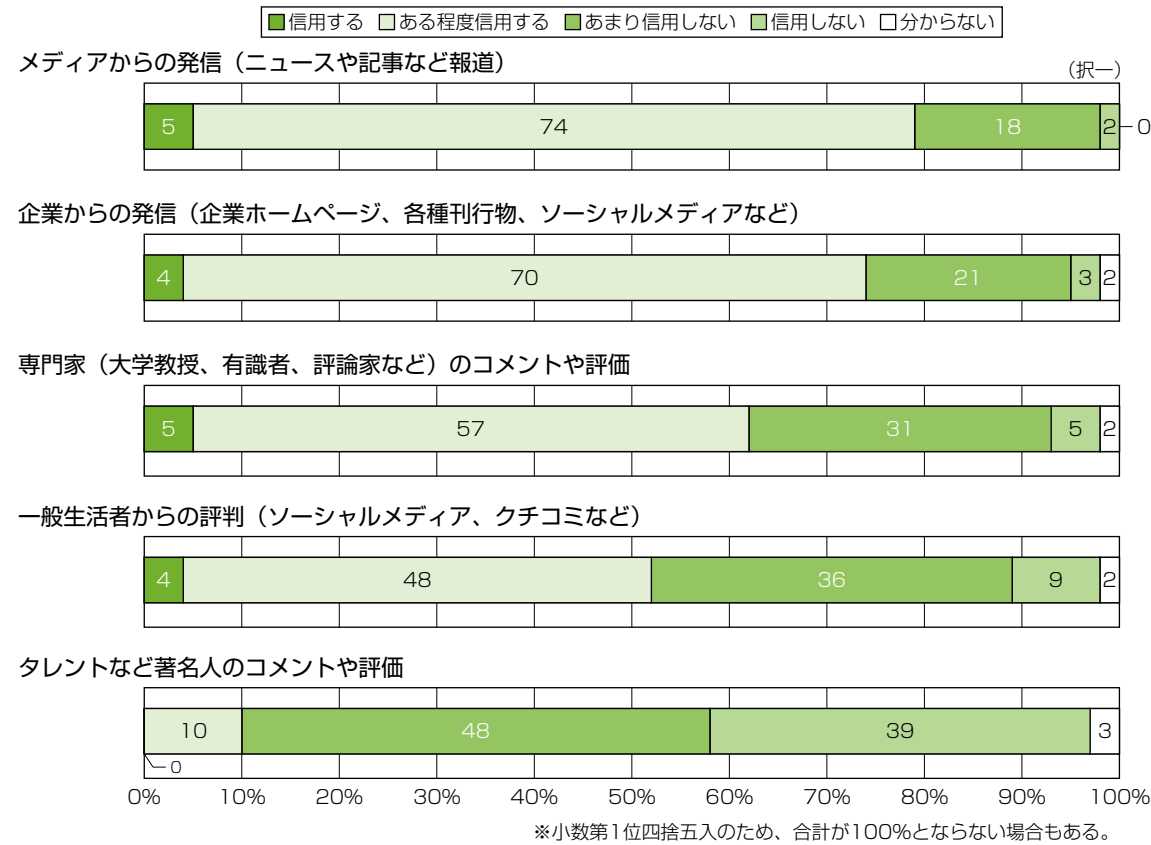
世代別で見ると、高い世代ほど「新聞」の利用が目立ち、60歳以上では86%、29歳以下の若年層では46%と、世代間で差が見られる。「テレビ」についても29歳以下、30歳代ではともに38%となり、他の世代と比較して低い。「雑誌・書籍」も若い世代ほど低い。

なお、29歳以下、30歳代では「新聞」（29歳以下46%、30歳代55%）の次に、「企業が運営するインターネットサイト」（29歳以下44%、30歳代52%）を多く利用している。

# 5 企業評価の際の情報発信者の信用度

Point 「メディアからの発信」の信用度が最も高い

全 体



企業評価の際に利用する情報の発信者ごとの信用度について、「メディアからの発信（ニュースや記事など報道）」は「信用する（信用する／ある程度）」が79%と、約8割が信用している。次が「企業からの発信（企業ホームページ、各種刊行物、ソーシャルメディアなど）」（74%）。一方、「タレントなど著名人のコメントや評価」を信用している人が1割にとどまり、企業評価にはあまり影響しないことがうかがえる。

## 興味・関心を持った企業活動

CSR活動に関するものが多くポジティブに評価されている。イノベーション、働き方、経営施策などにも関心が高い

「最近、興味・関心を持った企業活動は何ですか」と聞いたところ、企業不祥事など、ネガティブなものも散見されたが、復興支援など社会貢献やCSRに関する活動を評価する回答が多かった。その他、新製品・新サービス・イノベーション、ダイバーシティなど雇用や働き方、経営方針などに興味・関心が多く寄せられていることが分かった。

### ◆CSR活動

- 敷地や山、海外などに積極的に植樹活動している。
- 東北の震災復興支援を継続的に行っている。
- 定期的に企業敷地外の清掃や除草作業を続けている。
- 近隣の学校などへの出前授業による地域貢献活動。
- 文化活動やスポーツの支援に積極的に取り組んでいる。

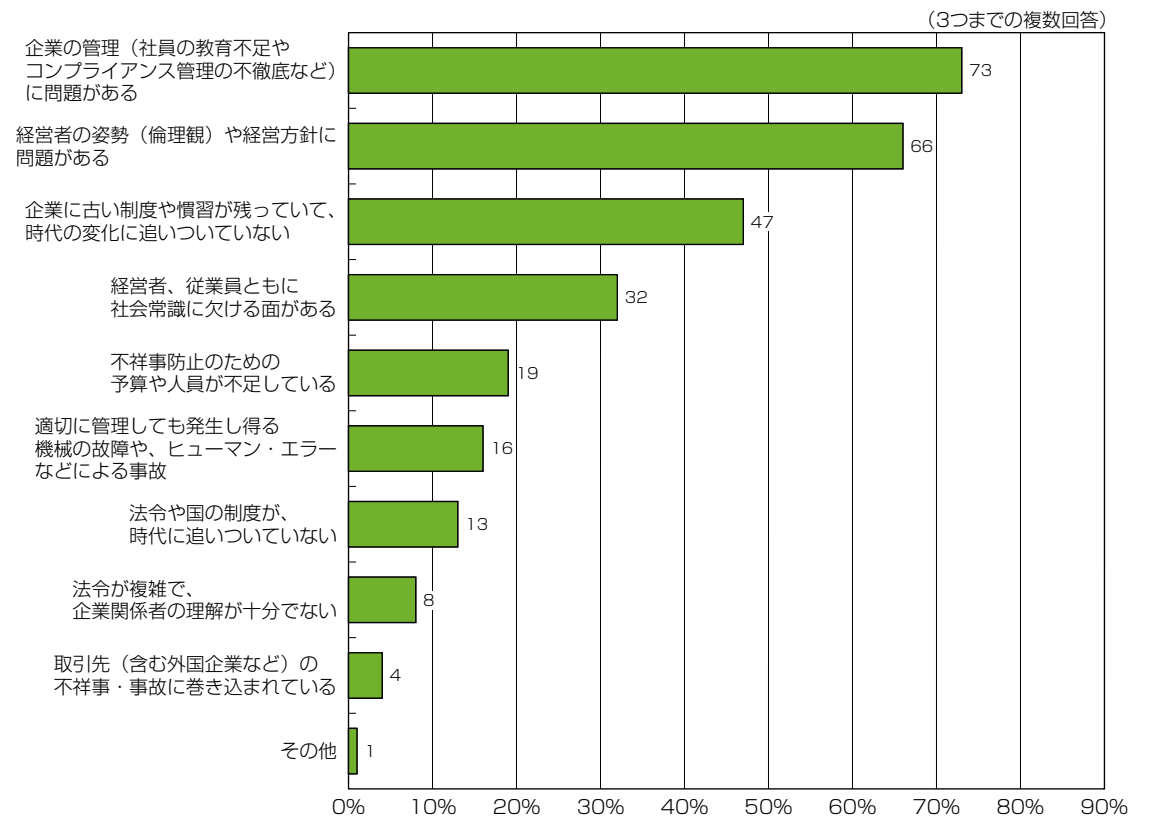
### ◆新製品・新サービス・イノベーション

- 燃料電池自動車の市販。
- エボラ出血熱対策の製品開発。
- ウェアラブル機器、ロボット、医療などへの積極的な取り組み。
- 国産ジェット機の開発がもたらす日本の技術革新。

# 6 企業不祥事の原因

Point 主な原因は「企業の管理体制」と「経営者の姿勢や経営方針」

全 体



企業不祥事の原因として考えられるのは、主に「企業の管理（社員の教育不足やコンプライアンス管理の不徹底など）に問題がある」（73%）と「経営者の姿勢（倫理観）や経営方針に問題がある」（66%）。年度別で見ると、2010年度、2012年度調査においてもこの2項目が特に多く6割を超えており、企業の管理体制と経営者の姿勢および経営方針が企業不祥事の大きな原因として認識されている。

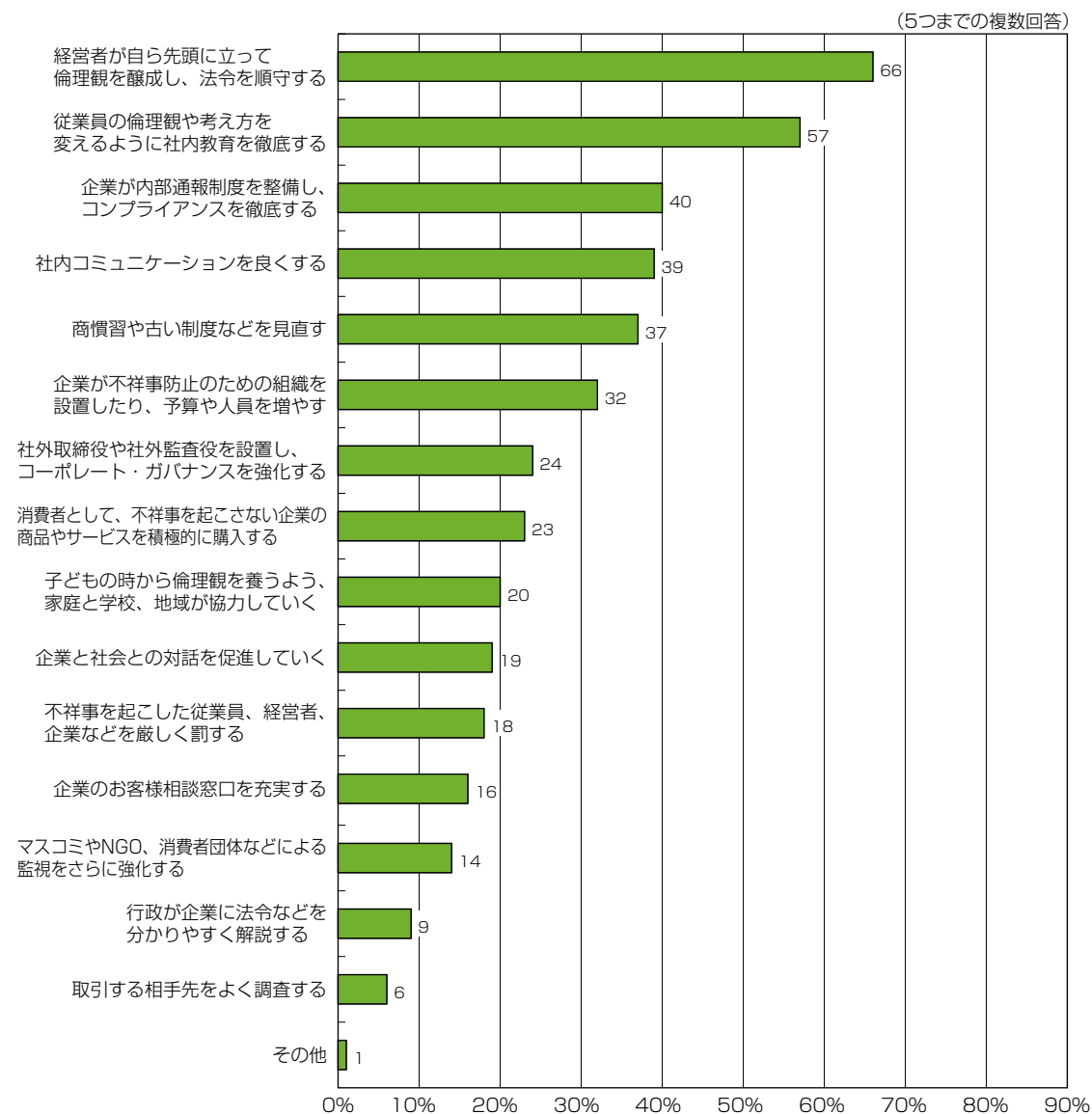
## 7

## 企業不祥事の防止策

## Point

最大の防止策は「経営者が自ら先頭に立って倫理観を醸成し、法令を順守する」  
「従業員の倫理観や考え方をえるように社内教育を徹底する」

## 全 体



企業不祥事を防止するために具体的に取り組むべきことは、「経営者が自ら先頭に立って倫理観を醸成し、法令を順守する」(66%)と「従業員の倫理観や考え方をえるように社内教育を徹底する」(57%)で高い。以下、「企業が内部通報制度を整備し、コンプライアンスを徹底する」(40%)、「社内コミュニケーションを良くする」(39%)、「商慣習や古い制度などを見直す」(37%)と続いている。

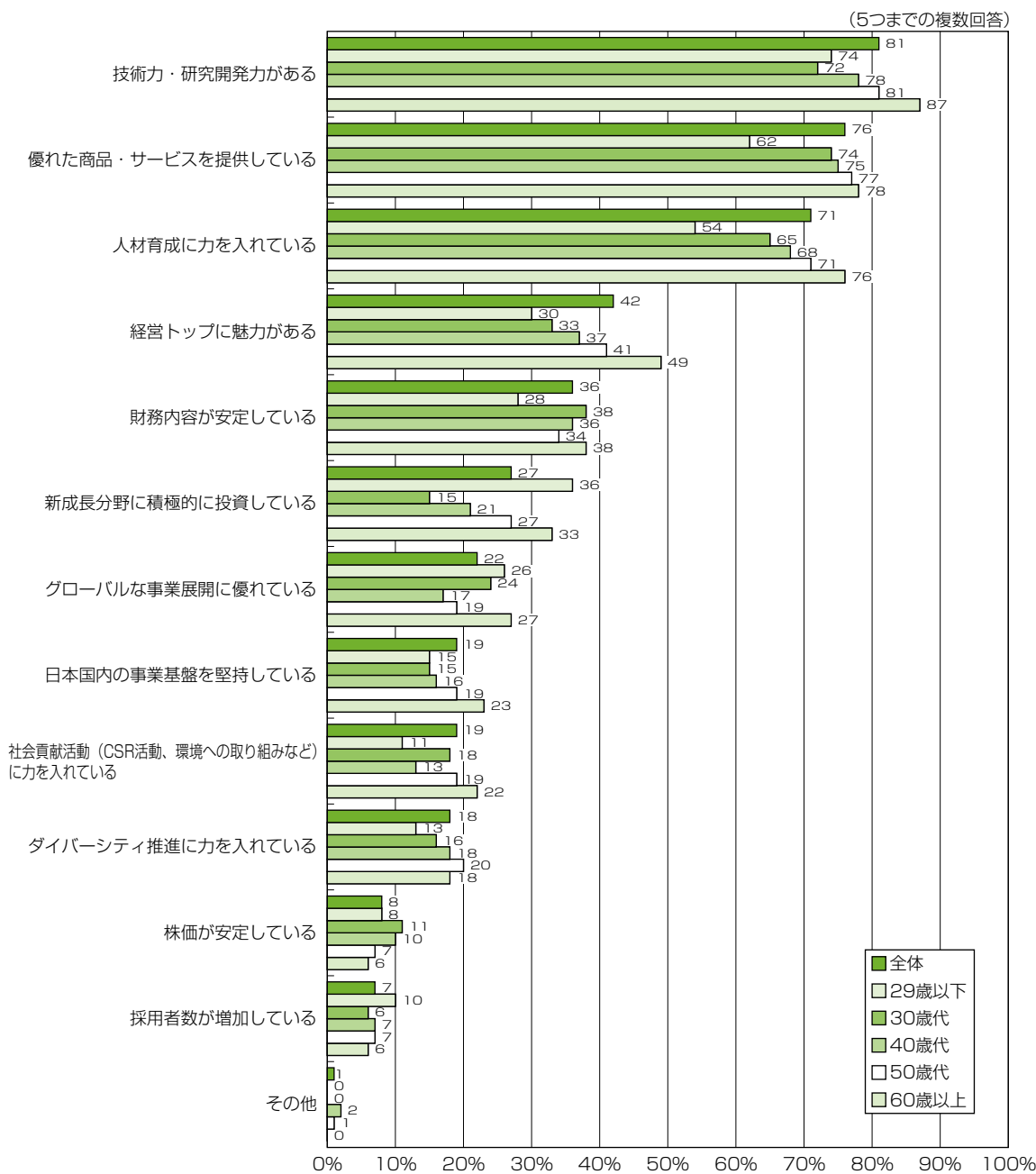
## 8

## 将来性を感じる企業

## Point

将来性を感じるのは「技術力・研究開発力がある」「優れた商品・サービスを提供している」  
「人材育成に力を入れている」企業

## 全体・世代別



将来性を感じる企業として最も多く挙げられているのは、「技術力・研究開発力がある」(81%)、「優れた商品・サービスを提供している」(76%)、「人材育成に力を入れている」(71%)で、この3項目が際立って高い。

世代別では、「技術力・研究開発力がある」「優れた商品・サービスを提供している」「人材育成に力を入れている」「経営トップに魅力がある」「日本国内の事業基盤を堅持している」は、世代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

対照的に他の世代と比べて29歳以下で比較的高いのは「新成長分野に積極的に投資している」(36%)、「グローバルな事業展開に優れている」(26%)などで、これからの社会を担っていく人たちの企業観を垣間見ることができる。



## 企業の社会的信頼の維持・向上に関する意見・感想

### 29歳以下の意見・感想

- ◆トップがしっかりとしたビジョンを示し、社員からの意見を聞く余裕を持ってほしいです。
- ◆経営者と労働者の対話が増えれば、少しずつ良くなっていくのではないのでしょうか。
- ◆古い慣習を捨て、新しいことにチャレンジすることも大切だと思います。
- ◆お客さまの声を受け入れ、それに応えようとし、応えていけば必ず信頼されると思います。
- ◆適正な利益を得て顧客へ還元する、という基本的な企業の仕組みを大切にすべきだと思います。
- ◆不祥事を起こさないことは当たり前であり、不祥事を起こさないための施策を社会に発信していくことが重要であると思います。

### 30歳代の意見・感想

- ◆グローバルに世界へ展開していくのも企業としては大切ですが、地元や地域といった原点を忘れずに活動している企業は応援したくなります。
- ◆売って利益を上げるだけでなく、買った後のサービスやフォローが充実していると信頼できます。
- ◆一般の人への情報発信が重要です。工場見学などを行えば、信頼の維持向上につながると思います。
- ◆海外進出を加速し、現地の人の役に立ち、成功例を日本に輸入するべきだと思います。
- ◆問題が起こったときに、迅速に対応することが大切だと思います。
- ◆企業内にきちんとした技術の蓄積を行うことが大切だと思います。人的資源を外部に頼り過ぎてしまっては、企業の将来的な成長性を元にした社会的信頼を損ねてしまいます。
- ◆普段から従業員一人ひとりが意識して、自社と自分の仕事に誇りを持つことが大事だと思います。

- ◆離職率が低い企業、社員が生き生きとした表情で働いている企業は信頼できます。
- ◆どうしてもミスや過ちは起こってしまうものかもしれませんが、そのときに隠そうとせず、きちんと公表し、今後どう改善していくのかを明確にする姿勢があれば、信頼は維持していけると思います。

### 40歳代の意見・感想

- ◆派遣・契約社員としての不安定な雇用など、働く人と企業の間で信頼関係を結ぶことができない現状では、消費者に提供される商品やサービスにも影響がでくると思います。
- ◆将来を見据えた投資、人材育成を積極的に行って、継続的に利益を確保し、「技術立国日本」を取り戻してほしいと思います。
- ◆安全・安心への徹底的なこだわりが欠かせません。消費者も常日ごろから商品を買うときに「この店でこの商品を迷わず買いたい」と思っています。企業も積極的に発信して消費者の信頼を絶えず得る努力が必要です。
- ◆何かあったとき容易に相談できる窓口があると、消費者として利用しやすいと感じます。メールでの問い合わせへの迅速な返事や、電話できちんと説明してくれることで、安心感が増します。
- ◆企業の要となるものは技術力と人だと思います。新しいことを追い求める心と、人材育成を大事にし、クリアな経営姿勢を続けてほしいと思います。
- ◆取引先の倫理観の管理までは大変だとは思いますが、そこまで把握できて初めて企業を信頼できるようになるのだと思います。消費者は低価格よりも安心や信頼を求めていると思います。
- ◆不祥事を隠したい気持ちは分かりますが、起きた際に誠実な行動ができれば、結果的に信頼は向上していくと思います。
- ◆国が音頭を取らなくても、積極的に環境問題やダイバーシティなどに取り組んできた企業は先見の明があり、信頼できます。

### 50歳代の意見・感想

- ◆企業の一人ひとりのコンプライアンスが重要で、教育や経営者の考えも重要です。それを監視する社会の目や法律も必要だと思います。
- ◆組織風土に根差す価値観に基づいて行動するのではなく、常に外部の価値観とのズレを意識しながら行動することが必要だと感じます。
- ◆不祥事や事故が起こることはあると思いますが、肝心なのは、その時々はどう対応し、そこから何を学び次に生かしていくのかだと思います。
- ◆経営者自らの広報マインドと広報セクションの重要性を、さらに評価してほしいと思います。
- ◆文化活動、社会活動、奨学金などに資金援助をし、社会とともに繁栄していく姿勢が大切だと思います。
- ◆顧客には優れた商品・サービスを提供し、従業員には給与・待遇などで満足できる報酬を出すことだと考えます。
- ◆地球環境を守り、子孫に残すべき自然と文明の折り合いの付け方をはっきりと打ち出し、実践していくことが必要だと考えます。
- ◆先進の発明のために地道に研究する人材を大事にする企業があればよいと思います。包容力のある企業を信頼します。
- ◆経営者の人的な魅力もとても重要なポイントだと思います。

### 60歳以上の意見・感想

- ◆広く商品や企業理念を広報し、一般から多くの声を吸い上げ、社業に取り入れることが一層必要だと思います。
- ◆内部留保ばかり増やさず、利益を従業員へ還元することで、その企業への社会的信頼を得ることができると考えます。
- ◆日常会話の中にも感謝の心がにじむような社員の育成こそが大事であると思います。会話の中に企業の姿を推察します。
- ◆「ノープレス・オブリージュ」（高い地位に伴う道徳的・

精神的義務）という言葉の意味を、企業トップは再度認識すべきです。

- ◆社員を信頼することによって事業が活性化し、社員の活躍によって消費者から信頼されることを、トップは再認識してほしいです。
- ◆大きな企業になれば風通しも悪くなると思うので、常に創業者の気持ちを維持していただきたい。
- ◆税金を払う行為を賞賛する社会的風土を醸成すべきであり、企業の社会的信頼を測る指標の1つに納税行為が加わることを願っています。
- ◆消費者といかに密接にかかわる視点を企業全体が持っているかだと思います。大根1本の値段を知っている経営者であってほしいと思います。
- ◆商品やサービスに疑問や苦情がある場合、できるだけ早く誠実な対応をしてくれること。これに尽きるのではないのでしょうか。
- ◆ウェブサイトなどでは良いことしか書かれていません。商品を改良途中であるとか、改革を試みている点などが明かされていると、むしろ信用度が増します。
- ◆公明正大で「三方よし」を実践することが大切だと思います。
- ◆地域に迷惑を掛けるような大きな事故を起こさないことが大前提です。
- ◆特に健康や安全に関係のある製品・商品の表示を正確にするべきです。生活者の視点で物事を判断すればおのずと進むべき道は分かります。
- ◆小さいころからの教育が重要で、一企業ではなく社会全体の倫理観を高めるための対策が必要だと考えます。
- ◆「企業は人なり」。良好な働き場所を提供し、従業員の幸せと社会人としての成長を願い、雇用を継続維持することだと思います。日本的経営でもグローバルな競争に勝てると信じています。

(文責 主任研究員 伊藤貴範)



# 企業と生活者懇談会

第191回【兵庫 2014年11月19日】

## 鹿島建設株式会社 国宝姫路城大天守 保存修理工事施工現場

### 鹿島建設のモノづくり ～よみがえった白鷺、国宝姫路城

11月19日、鹿島建設国宝姫路城大天守保存修理工事施工現場（兵庫県姫路市）で、「企業と生活者懇談会」を開催し、生活者19名が参加しました。会社概要、保存修理工事概要について説明を受けた後、特別講演として姫路市役所産業局姫路城総合管理室の小林正治課長補佐より、姫路城保存修理工事の意義について説明を受けました。その後、姫路城内を見学し、質疑懇談を行いました。鹿島建設からは、姫路城大天守保存修理JV工事事務所の野崎信雄総合所長、河原茂生所長、広報室の原田健室長、姫路営業所の太田誠所長が出席しました。



懇談会当日、青空に映える大天守

### ● 鹿島建設からの説明

#### 鹿島建設の歴史と事業展開

鹿島建設は、1840年（天保11年）、大工の鹿島岩吉が棟梁として江戸に店を構えることから始まります。幕末には英一番館を始めとする多くの外国商館を建築し、「洋館の鹿島」として名をはせました。明治維新

後は鉄道請負業へ転進し、「鉄道の鹿島」と呼ばれました。その後、日本の近代化とともに土木事業、建設事業へ積極的に進出し、1963年（昭和38年）には年間受注高が世界第1位の1368億円に達しました。1968年（昭和43年）には、当時の技術の粋を結集し、地震の多い日本では建設不可能といわれた超高層ビル「霞が関ビル」を完成させ、その後の超高層ビル建設ラッシュの先鞭をつけました。

時代のニーズに合わせ、事業分野を変革、拡大していくためには、技術開発が欠かせません。当社は、1949年（昭和24年）に建設業界初となる技術研究所を設立し、設計・施工技術の向上、コスト削減、安全性向上、品質向上を追求し続けています。来年（2015年）で創業175周年を迎えますが、今後も建設業を核にして、世界を舞台に、100年先までも見据えた安全・安心・快適な社会づくりに貢献していきます。

#### 建設業界の現状

現在、日本に建設会社は約47万社あります。コンビニが約5万2000社ですから、その約9倍もの数です。小規模な会社が数多くあることが、建設業界の特徴でもあります。

東日本大震災の復旧・復興や、東京オリンピック・パラリンピック招致などで、建設投資は増加傾向にあります。橋やトンネル、空港といったインフラ施設の維持修繕工事の需要も増えています。

最近、人件費や資材の高騰で、工事の入札が不調に終わり、建設計画が延期になったというニュースを聞かれたことはないでしょうか。現在建設業界が抱えている一番の課題は、建設労働者の不足です。特に、鉄筋工や型枠大工といった、技能を持つ熟練労働者の不足が顕著で、これらの技能労働者の労務費単価はいずれも東北地方を筆頭に大幅に上昇しています。東京オリンピック・パラリンピックを控え、技能労働者の不足がさらに進むのではないかと懸念しています。また、建設労働者を年齢別に見ると、34歳以下が19%、55歳以上が34%を占め、高齢化が進んでいます。この状

況を改善すべく、現在業界をあげて、賃金の引き上げや休日の確保などの労働環境の改善整備に努め、人材の確保に取り組んでいます。

#### 鹿島建設の女性活躍推進

建設業は男の仕事の代名詞といわれていましたが、状況は変わってきています。鹿島建設の従業員は単体で約8000名ですが、その15%に当たる1200名が女性です。施工現場や設計に携わる女性も増え、女性ならではのきめ細やかな配慮でお客さまからの信頼を獲得し、業績に貢献しています。総合職の採用についても、採用数の15%を女性が占め、建設業界に希望を持って入社する女性が増えていることを実感しています。現在、建設業界では、女性の技術者を5年以内に倍増することを目標に取り組んでいます。建設業界で働く女性に対する「けんせつ小町」という愛称もできました。造ったものが50年、100年と後世に残ることが建設業の醍醐味です。人々の暮らしを便利に、豊かにするというやりがいを感じて当業界に来ていただくために、今後も情報発信を継続していきます。

### ● 姫路城大天守保存修理工事

#### 大天守を覆う素屋根づくり

姫路城大天守保存修理工事の工期は、2009年（平成21年）10月から2015年（平成27年）3月までのおよそ5年半です。工事は、まず、姫路城を覆う「素屋根」の建設から始まります。素屋根は、瓦や漆喰壁を外したり補修したりする間、大天守を風雨から守り、作業足場を確保する重要な役割を果たすのですが、この素屋根づくりが大変な難工事でした。姫路城の大天守はいくつかの小天守や渡り櫓わた やぐらで囲まれており、非常に複雑な形状をしています。当然、傷を付けることは許されません。まずは現地の測量を綿密に行い、当初の設計図を修正しました。

さらに、大天守が建つ地面の下には史跡が埋まっているため、敷地内では杭打ちや掘削ができません。杭が打てないということは、素屋根は自重だけで建つ必要があります。地盤を傷めないよう地面に特殊な土木シートを敷き、コンクリートで厚く基礎を固めました。鉄骨の組み立ては、CGなどを使って手順をシミュレーションした上で行いました。鉄骨が城の屋根まで10セ

ンチメートルに迫る個所もあり、作業には高い精度が要求されました。文化財保護法と消防法の規制により、現場では火が使えません。鉄骨の連結は溶接ではなくすべてボルトで固定しました。着工から1年2カ月、ようやく素屋根が完成し、内部で保存修理工事が始まります。



複雑に張り巡らされた鉄骨（鹿島建設提供）

#### 職人の持つ伝統技術が光る

今回の保存修理工事では、瓦の葺き替えなどを行う屋根工事、壁の漆喰の塗り替えを行う左官工事、床や建具などの修理を行う木工事、耐震性を高めるための構造補強工事を行いました。屋根工事では、約8万枚もの瓦をすべて実測し、寸法や使用個所などを詳細に記録しました。文化財工事では、使えるものはできるだけ再利用するのが原則です。反りやゆがみなどの状態を確認し、約8割の瓦を再利用しました。新たに製作する瓦の中で、最も時間がかかったものが鯨瓦しやちがわらです。瓦づくりの中で一番難しいのは焼く前の乾燥作業ですが、鯨瓦は、その大きさから乾燥に3カ月もの期間を



選定された2尾の鯨瓦（鹿島建設提供）

要しました。形状の変化や割れを想定して4尾（2対）製作しましたが、いずれも満足な出来となり、そのうち出来の良い2尾を選定して使用しました。

城を保護し、白く美しく見せていた漆喰は、傷んでいる箇所ごとに修理方法を決め、最善の方法で作業を進めていきました。新たに塗る漆喰は、昭和の大修理（1956～1964年）の配合を再現するため、古文書を参考にしながら配合試験を行いました。漆喰の主原料の中には、現代では使用の機会が減っているものも多く、選定、確保には半年間を要しました。

木工事では、各木部の腐食度合いによって取り替えの判断をし、傷みのある部分のみを補修しました。補修部分が目立たないよう古色塗りで色を合わせるなど



の工夫も行っています。また、見えない個所でステンレスを使った柱の耐震補強工事も行いました。

## ● 特別講演「かけがえのない文化遺産を次の世代へ」

### ■ 姫路市役所産業局姫路城総合管理室

#### 小林正治課長補佐

姫路城には、大天守を含め82棟の国宝、重要文化財があります。大天守を除く81棟は、平成中期保存計画として、世界文化遺産に登録された翌年の1994年（平成6年）から29年間かけて修理を行います。傷んだ瓦の修理と漆喰の塗り替えが主な作業です。姫路城はすべて木造のため水にとっても弱く、柱が腐ると修理規模が大きくなってしまいます。そのため屋根や外壁を小まめに修理することで劣化を止めています。29年もの年月をかけて工事を行う理由は、絶えず工事を発注することにより、伝統技術を守るためです。29年の工期が終わると、最初に手掛けたところが傷んできます。そうすると、第2期平成中期保存計画が始まります。最近の一般の建物では、壁に漆喰を塗ることはそうありません。絶えずどこかで工事をしながら建物と伝統技術を守り、職人を育てることが、姫路市に託された課題です。

今回の大天守保存修理に当たっては、一般の方が修理の様子を見学できる施設「天空の白鷺」を開設しました。姫路市のシンボルである姫路城が、長期間の修理工事により見られなくなる状況は、姫路市の観光産業にとって大きなダメージになります。そこで、50年ぶりの修理という状況を逆手にとり、修理中の姫路城を観光スポットにしようと考えたのです。この「今しか見るこののできない姫路城」の効果は大きく、2011年（平成23年）3月のオープンから閉館までの2年10カ月の間に、約184万人の方に来ていただきました。

## ● 見学の様子

参加者は、姫路城の歴史や、瓦や漆喰壁の保存修理状況についての説明を受けながら、城内の西の丸、百間廊下、二の丸などを見学しました。二の丸には、江戸、明治、昭和の各時代に製作された大天守鯨瓦が展示されています。明治時代までの鯨瓦は3分割ですが、昭和のものは2分割になっています。これは使う道具や

技術が進歩したことにより、より大きく、重いものでも揚げ降ろしが可能になったからです。今回の修理工事で製作した鯨瓦は7代目で、6代目である昭和のものを参考に製作されました。昭和時代と同様の2分割ですが、重心を下げるために、分割位置を少し下げたそうです。

城内の瓦や漆喰壁は、修理を行った年やその使用場所により傷み方が違ってきます。普段の観光とは違う視点での見学に、参加者は熱心に説明を聞き、瓦や壁に見入っていました。

## ● 懇談会の概要

**Q 国宝建築物ならではの、一般の建築物の修理とは違う苦勞を教えてください。**

**A** 多くの法令による制限を受ける点です。姫路城は世界文化遺産に登録されているので、文化財保護法と消防法による規制に加え、ヴェニス憲章により形状や材料、工法を変えないように工事を進めていかなければなりません。ドイツでは、住民の利便性を優先して峡谷に橋を架けたために、世界遺産の登録を抹消された事例もあります。溶接したり、少し形を変えたりした方がお城の強度が増すような場合でも、そうした変更を加えずに構造補強を行いました。

**Q 城周辺に杭を打ち込めない中で、素屋根の安全性はどのように確保したのですか。**

**A** 高さのある建築物にとって一番の敵は風です。素屋根は置いてあるだけの設計ですので、基礎をしっかり固め、約5500トンの自重で倒れないようにしました。また、素屋根には実物大の姫路城を描いたシートを掛けていましたが、このシートに特殊な処理を施し、風を通すようにしていました。通常の工事では、台風が来ると風に煽られないようカバーを外しますが、今回の工事では、3シーズン台風が来ましたが、一度もカバーを外すことなく工期を終えることができました。



総合所長の説明を受け、大天守を見上げる参加者の皆さん

**Q 「天空の白鷺」では、多くの見学者や報道関係者の視線があったと思うのですが、現場の方々にブレッシャーなどはありましたか。**

**A** オープン当初、現場の職人たちは人の目があることを嫌がりました。工事は安全と品質が第一ですので、見られることを意識して気を散らしては作業に支障が出かねません。まずは見学者から見えない場所から作業を始め、徐々に慣れていってもらいました。取材に対応したがる職人も多いのですが、いざ報道されるとうれしいものです。そういった職人の気持ちに配慮しながら作業を進めました。

**Q 工事に従事した職人は何名程度ですか。**

**A** 左官工事は16名、瓦工事は12名程度です。保存修理には手順があり、品質維持の観点から、できるだけ同じ職人が手掛けることを意識しました。

**Q 伝統技術の伝承にどう取り組んでいますか。**

**A** 今回の現場には、ベテランの50代から将来有望な10代まで、幅広い年代の職人を配置し、技量に応じた仕事量を担当してもらいました。横に並んで同じ作業をしたときは、隣と仕上がりを比べられますから、いい刺激になったことと思います。国宝姫路城の修理に携ったという経験も、職人としての誇りにつながったのではないのでしょうか。



懇談会の様子

**Q 技能労働者の不足が課題ということですが、外国人労働者を受け入れて、日本の技術を教えているのですか。**

**A** 今は「外国人技能実習制度」という制度があり、建設関係では年間約5000人が来日し、3年間の実習を経て自国に帰ります。実習期間の延長や受け

入れ人数枠の拡大などを求めています。今の労働者不足を解消するまでの効果は期待できません。また、この制度は日本で学んだ技術を自国で生かしていただくためのものです。長期的に日本の技能労働者を増やすということにはつながらないのが現状です。

## ● 参加者からの感想

- ▶ 修理工事に当たっての苦勞、努力が心に伝わりました。自分の仕事の後世に残るのは、建築や土木の世界で仕事をする人の特権だと感じました。
- ▶ 最近は便利さだけを追求しがちですが、後世に残る仕事は、やはり手間のかかることだと感じました。職人の年代を各層に分けるなど、次の世代への伝統継承を心掛けておられた点に感心しました。
- ▶ 地面を傷つけることなく素屋根を完成した最新の技術と、それを使いこなす鹿島の「人の持つ力」にわくわくし、大変感動しました。
- ▶ 「けんせつ小町」という愛称のもと、女性の雇用に力を入れていることをうれしく思います。現場で働く女性が増えることで、男性も働きやすい環境になると期待しています。
- ▶ 建設業界の現状は興味深いものでした。今後は維持修繕工事により、既存のものを大切にしていける時代だと感じました。また、地方が活性化し、その地方の個性を生かした建物が増えることが建設業界の発展につながると感じました。



### ● 鹿島建設 ご担当者より ●

当日は、よみがえった大天守の一般公開を約4カ月後に控え、既に保存修理工事は完了しておりましたので、DVDなどを使いながら、5年間工事を指揮してきた総合所長から工事の模様やポイントをできるだけ詳しくご説明させていただきました。暖房設備がなく肌寒い現場詰所での説明となりましたが、ご参加いただいた皆さん熱心にお聴きくださりありがとうございました。子どものころ、「昭和の大修理」を間近で見、今回「平成の大修理」の仕事を最後に鹿島を退職する総合所長にとっても思い出に残る見学会となりました。

（文責 主任研究員 大野祥子）



## 株式会社日清製粉グループ本社 日清製粉株式会社 福岡工場

### 主要食糧である小麦粉の製造を担う 日清製粉グループの取り組み

11月21日、日清製粉の福岡工場（福岡県福岡市）で「企業と生活者懇談会」を開催し、生活者17名が参加しました。日清製粉グループおよび日清製粉福岡工場の概要説明を受け、工場見学、質疑懇談を行いました。

日清製粉からは、福岡工場の高橋誠一郎工場長、久積淳一郎工場次長、品質保証部福岡工場駐在の田村佑介主査、日清製粉グループ本社からは、CR室の南澤陽一室長、山下敦子主査、人見有紀氏、総務本部広報部の関野修策部長補佐、堀野倫広氏が出席しました。

### ● 日清製粉グループ本社、日清製粉からの説明

#### 日清製粉グループのあゆみ

1900年（明治33年）に創業した日清製粉グループは、「信を万事の本と為す」と「時代への適合」を社是とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」ことを企業理念としています。群馬県の館林に館林製粉としてスタートし、その後、数々の製粉会社を買収しながら拡大してきました。1908年（明治41年）、横浜市にあった日清製粉を買収した際に「館林製粉」から「日清製粉」に社名を変更しています。

製粉事業のほか、事業の多角化を進めてきました。小麦粉の副産物である「ふすま（小麦の皮の部分）」を生かした飼料事業が生まれたり、小麦粉の製造工程で使用する「ふるい」を作る会社を設立したことをきっかけとしてメッシュクロス事業に発展したりしました。その後、ペットフード事業、エンジニアリング事業なども発展させ、また海外での事業展開も米国などで加速しました。

#### 小麦粉シェア国内トップの責任感

製粉事業では、業務用の小麦粉を製造し、国内シェ

アは第1位で約4割です。「国民の皆さまの主要食糧を支える」という社会的責任を果たすために、日々の業務に取り組んでいます。

創業120周年となる2020年を見据えた中期経営計画「NNI-120 スピードと成長、拡大」を、2012年（平成24年）4月にスタートし、その中で製粉工場の生産集約も進めています。製粉工場はもともと、小麦の産地に建てられていましたが、輸送費用の削減など製造効率と生産コストを勘案して、内陸の工場を順次閉鎖し、大きな新工場を海岸沿いに造っています。例えば北関東では、水戸、宇都宮、高崎、館林などを閉鎖し、千葉と鶴見に集約しました。九州では鳥栖と筑後を閉鎖し、福岡工場に集約しました。国内で使用する小麦の約9割弱は海外から輸入されており船で日本に運ばれてくるため、沿岸部の製粉工場では船から小麦を直接サイロに貯蔵できるため効率が良いのです。

#### 最新のスマート工場



工場長による工場の概況説明

2014年（平成26年）2月に稼働した福岡工場は、主に九州で二次加工品（例：パン、麺、菓子）を製造するお客さま向けに用途に応じた小麦粉を生産しています。博多港から陸揚げした小麦をすぐに使用でき、高速道路の入り口にも近い好立地にあります。原料から製品までの工程が非常に短く、異物混入などの発生を防ぐ設計となっています。国内で最も新しい製粉工場で、日清製粉の最新のノウハウが注ぎ込まれています。

福岡工場には4つのコンセプトがあります。1つ目が「Quality」です。約90年、九州で蓄積した技術で、安定した品質でお客さまに製品を供給します。

次に「Safety」。お客さまにいつも安全な小麦粉を安心してお使いいただくために、製品の安全に最大限

配慮して設計しておりますが、入退場管理などのフードディフェンスを今後さらに強化する計画です。

そして「Technology」です。世界の最新技術を導入した機械を設置し、LED照明やガスヒートポンプ空調など、高効率、省エネ、環境に配慮しています。

最後が「BCP（事業継続計画）」です。東日本大震災後に建設された工場であり、高さ30メートルの立体自動倉庫に震度6でも倒れない制振装置を導入するなどしています。

このように福岡工場は、コンパクトで効率的、かつスマートな最新鋭工場です。

#### 小麦粉が出来るまで

小麦は、胚乳、胚芽、表皮で構成され、小麦粉は、小麦の粉砕物から胚乳を段階的に取り分け、それらを組み合わせて製品化したものです。表皮はふすまになります。

タンカー等で運ばれてきた原料の小麦はサイロ会社のサイロで保管された後、工場に直結したコンベヤーベルトを通して製粉会社に持ち込まれます。最初は精選機にかけ、小麦以外の混入物を取り除きます。次に、小麦に水を掛けて調質します。調質の目的は、ふすまと胚乳が分かれやすい状態にすることと、産地、収穫時期などによって異なる水分量を一定にすることです。生産国や品種によって小麦の物性もいろいろで、お客さまごとのニーズに対応してブレンドも行います。

製粉工程では3つのプロセスを組み合わせることで小麦粉を作ります。最初にロール機で回転する2つのローラーの間を通して小麦を砕きます。次に、目の大きさの異なる網が何十枚も入ったシフターでふるいにかけて、網を通過する粒の大きさごとに取り分けます。続いて風の力を利用したピュリファイヤーで、わずかに残ったふすまを除去し、胚乳を取り出します。これらのプロセスを何度も繰り返して、少しずつ小麦粉が取り出されていきます。

出来上がった小麦粉は、タンクに貯蔵された後、包装ラインで25キログラムずつクラフト紙の袋に詰められ、金属検出などのチェックを経て、立体自動倉庫に保管され出荷を待ちます。一度に大量に使用のお客さまには袋詰めせず約10トンずつ、専用のローリー車で届けます。



小麦粉の入ったローリー車

### ● 見学の様子

#### 多種多様な製品を作る技術

製造ラインは強力粉向けと薄力粉向けに分かれていて、機械の仕様・設定は何通りもあります。小麦は、工場の3～5階に設置されているロール機、シフター、ピュリファイヤーの各工程を、風で送られたり吸い上げられたりして何度も行き来しながら、用途に応じた何百種類もの小麦粉に出来上がっていきます。例えばパン用といっても、食パン、あんパン、メロンパンでは、それぞれに適した小麦粉が求められているのです。

小麦の粒の皮に近い部分や中心に近い部分など、どの個所かによっても、小麦粉の成分は異なります。日清製粉の技術は、その個所別に小麦粉を選別できます。微細な粒子を扱い制御する技術は、世界的に見てもトップレベルとされています。



小麦から小麦粉ができる過程を実感

小麦粉を作るための設備、機械は、長年の研究・開発で進化してきました。例えばシフターです。製品になるために小麦粉が通過する網の目は0.1～0.2ミリ



メートルという細かさ。目詰まりせずに安定的にふるいを行う網とその周辺部品は品質を決める重要なパーツです。参加者は実際に網や製造段階の小麦粉を触って、技術の蓄積を感じることができました。

加工・調理まで行い品質追求

工場の中には、小麦粉の物性を評価する品質管理センターや加工センターがあります。実際にパンや麺を試作して味、香り、色、食感などを確認し、品質検査や製品開発をしたり、講習会を開いたりしています。



小麦粉の種類が左右するスポンジケーキの焼き上がり

強力粉と薄力粉それぞれで作られた2種類の食パンを試食しました。含まれているタンパク質の量などが異なるため、見た目や食感などが全く違い、パンには強力粉の方が向いていることが分かります。次に2種類のスポンジケーキを見比べると、薄力粉の方がふっくらと焼き上がっています。それぞれの食品に適した小麦粉が必要で、パンの食感、うどんののど越しなども、小麦粉の性質が大きく影響していることを知りました。

懇談会の概要

国内での小麦の利用について教えてください。

1970年代は麺が1位の用途でしたが、現在、パンが伸びて約40%、麺が約35%、菓子が12～13%となっています。国内で使用される小麦の量(輸入・国産)は現在、約600万トンです。

国内産の小麦はどのくらいあるのですか。

今年は約85万トンです。食料自給率で見ますと、カロリーベースで米97%に対し、小麦は12%です。

国内産小麦の生産は、戦前の昭和15年ぐらいに180万トンというピークを迎えています。戦時に大きく減少し、昭和36年にもう一度180万トン程度になり、再度減少し、変動を繰り返しています。

九州地区の小麦の生産量はどのくらいですか。

都道府県別生産量では、北海道が55万トンと約3分の2を占め、2位はここ福岡県の5万トン、次に佐賀、群馬、愛知と続いています。現在、日本各地でいろいろな良い小麦がありますが、一つひとつの品種の生産量が少ないので、全国向けの小麦粉として販売するには難しい状況です。

その中でも日清製粉は国産小麦の製品を積極的に開発しており、福岡工場でも福岡県産小麦100%の「筑紫こがね」という地粉を九州地区限定で発売しました。

また、福岡県には「ちくしW2号(通称ラー麦)」という博多ラーメン用の小麦もあります。

新興国の小麦消費の増加への対応について。

米、トウモロコシ、小麦、大麦など、世界の穀物需要量は、1970年(昭和45年)に比べ2倍に増加していますが、生産量もその伸びに対応して増えています。期末在庫率という数値も全体で21.1%、小麦は26.3%と、安心できる備蓄量があります。

生産量の世界シェアはEU諸国、中国、インド、米国という順ですが、輸出量では米国、EU、カナダ、オーストラリアの順となっています。

日本の小麦の輸入元は3カ国で、米国54%、カナダ24%、オーストラリア22%です。

小麦の種類による違いを教えてください。

小麦は大きく4つに分類されます。硬質小麦はタンパク質が多く、粘り・弾力性に富むので、パンや中華麺に適しています。軟質小麦はタンパク質が少なく柔らかいため、ケーキなど菓子向きです。和菓子やカステラなどには日本の小麦も向いていると思います。中間質小麦はうどんに適しています。また、デュラム小麦はスパゲティやマカロニ用で、弾力性の強いグルテンを豊富に含むため、こしの強いパスタができます。胚乳部が黄色なのが特徴です。

小麦の違いによって用途が異なり、パン向けの強力粉、中華麺などに向く準強力粉、うどんなどに向く中力粉、ケーキなどに向く薄力粉、パスタなどに向くデュラムセモリナに分かれます。

家庭での小麦粉の保管方法を教えてください。

開封後に閉め方が良くなかったり、常温で保管状態が悪い所に置くと、ダニが入ることがあります。特に好み焼粉のようにかつお節などのにおい成分が入っているものをダニは好みます。そのため「開封後は、虫害による健康被害を防ぐため、冷蔵庫に保管し、お早めにお使いください」と表示している製品もあります。

小麦粉自体にはダニがそれほど付かないのですが、袋をきちんと閉めて、冷暗所に保管してください。なかなか使い終わらずに冷蔵庫からの出し入れを繰り返すと、夏場などは30度と5度の場所を行き来することになり、結露して固まりが出来てしまうことがあります。

小麦の残留農薬への対応について。

国内産小麦は、収穫されて出荷するまで生産者団体が測定、管理し、合格品が我々に入っています。輸入品は、輸出国で船に積まれる前にサンプルが採取され、船が日本に来るまでの間に分析されます。万が一、政府の設定した残留基準値を超える農薬が検出された場合は、日本のサイロに入りません。なお、残留農薬は自社でもモニタリングしています。

トレーサビリティについて教えてください。

使用した原料までさかのぼってトレースできる体制を構築しています。国際規格のISO22000(食品安全マネジメントシステム)の認証も取得しており、各工程での記録を保管しています。ロット番号で、どこどの国のどの船の小麦だったかを追跡することができます。加えて、使った原料と小麦粉は、真空パックで2年間保存していますので、必要があれば取り出して分析が可能です。

小麦の遺伝子組み換えについて。

小麦の遺伝子組み換えについては、世界各国で研

究されていますが、菜種、大豆、トウモロコシ、ジャガイモなどと違い、まだ商業販売が認められた小麦の品種はありません。

参加者からの感想

東日本大震災の経験を生かしたコンパクトで環境にやさしい最新設備の工場を見学し、素晴らしさがよく分かりました。

福岡は粉文化になじみの深い土地です。地元根差した商品開発・販売を、今後も続けていただきたいと思います。

工場施設に入るときの衛生管理など、安心につながるものをいくつも体感しました。

工場を見学したことで、より企業や商品に関心が持てました。

身近にある製品が厳しい衛生管理のもとに製造されていることを知り、安心、感心しました。



●日清製粉グループ本社 ご担当者より●

このたびは、日清製粉 福岡工場にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。「製粉工場」を見学いただき、製造した小麦粉で作ったパンもご試食いただきながら、小麦粉の性質、製造工程や安全・安心に対する取り組みをご理解いただけたことと思います。また、積極的にご質問をいただいたことで、私ども社員一同も国民の皆さまの主要食糧である小麦粉を安定的に供給していく責任を強く受け止める機会となりました。今後も安全・安心かつ高品質の製品を皆さまのもとへお届けできるよう、日々努力してまいります。

(文責 主任研究員 伊藤貴範)



# 日本郵船歴史博物館



2014年12月12日、日本郵船歴史博物館（神奈川県横浜市）で、「生活者の企業施設見学会」を開催し、社会広聴会員27名が参加しました。

## ■概要説明と博物館見学の様子

2015年（平成27年）に創業130周年を迎える日本郵船は1885年（明治18年）、郵便汽船三菱会社（九十九商会が起源）と、共同運輸会社が、合併して誕生しました。

日本郵船歴史博物館は、日本郵船の歴史とともに、日本海運の歴史を紹介する、船会社で唯一の企業博物館で、1936年（昭和11年）に建てられた「横浜郵船ビル」を改修し、2003年（平成15年）にリニューアルオープンしました。

常設展示は、年代順に8つのコーナーに分かれており、1870年（明治3年）に九十九商会が防火用に作り、三菱のマークが初めて使用された天水桶から展示がスタートします。



三菱のマークが使用された天水桶

明治政府の富国強兵、殖産興業の政策に従い発展し、欧米豪などの海外航路を次々に開設して、昭和初期には豪華客船時代を迎えます。神社の名前が付けられた貨客船も多く、きれいで速い船、きめ細やかなサービス、食事などが世界中で評判になり、チャップリンをはじめ著名人が乗船しました。館内では、浅間丸の豪華なディナーが再現され、当時の乗客たちが船旅を楽しんでいた様子が偲べれます。



豪華なフランス料理を提供した浅間丸

しかしその後、太平洋戦争で壊滅的な打撃を受けます。沖縄の学童疎開船「対馬丸」をはじめ185隻を失い、戦前からの所有で残ったのは、6隻の貨物船と1隻の貨客船「氷川丸」のみでした。社員の犠牲者は5312名にも上り、館内の「殉職戦没社員冥福記念像」が、当時の悲しみを現代に伝えています。

ほとんどゼロの状態から戦後の復興が始まります。人の移動手段の主流が飛行機に変わったため、客船事業からはいったん撤退し（1990年代に再び参入）、貨物の輸送を担う総合海運会社に変革を遂げます。コンテナ船やLNG船、自動車船などの模型や資料から、日本のエネルギー輸入や製品の輸出入などを支える海運の重要性をあらためて認識させられます。



戦争直前に没収され戻ったばかりの氷川丸の模型

見学後、飛鳥・飛鳥Ⅱの元機関長から話を伺いました。船内の快適な空間を保つため、発電、空調、水の供給、ゴミ処理などを、厳しい環境基準でコントロールしたり、救命ボートや非常用電源装置の定期的に検査・訓練していることなど、快適なクルーズを支える裏側の努力を学ぶことができました。

## ■氷川丸見学の様子

1930年(昭和5年)に貨客船として誕生し、太平洋戦争中は病院船、戦後は引揚船、そして再び貨客船として活躍した氷川丸を見学しました。就航当時の姿が再現され、重厚な雰囲気の一等食堂や一等客室など、当時にタイムスリップしたような感覚になります。デッキから、横浜大栈橋からの出航を待つ飛鳥Ⅱの美しい全容も見ることができ、感激もひとしおでした。

## ■参加者からの感想■

「展示物が、船舶技術、戦争、秘話・悲話や歴史を物語り、興味と感動をもたらしました」「創業以来の栄光と苦難、その唯一の生き証人である氷川丸は重要な建造物です」「船も技術革新が進み、省エネルギーが進んでいることに感心しました」

（文責 主任研究員 杉山佳子）

みなとみらい線「馬車道駅」6番出口より徒歩2分、横浜市営地下鉄「関内駅」3番／4番出口より徒歩7分ほか

●住所：神奈川県横浜市中区海岸通3-9 ●TEL：045-211-1923

●入場料：一般400円、中高生・シニア（65歳以上）250円、小学生以下無料

〈日本郵船氷川丸（みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口より徒歩3分）と両施設セット券もあります〉

●開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで） ●休館日：毎週月曜日（ただし祝日の場合は翌日）

# 講演会

## 知らなかった放射線の話 ～低線量被ばくの誤解～

経済広報センターは2014年12月18日、「知らなかった放射線の話～低線量被ばくの誤解～」をテーマに、東京大学医学部附属病院放射線科准教授、緩和ケア診療部長の中川恵一氏を講師とする講演会を開催しました。出席者は、当センターの社会広聴会員や会員団体・企業の広報・環境担当者など約100名。



Profile

東京大学医学部附属病院  
放射線科 准教授／緩和ケア診療部長

中川恵一 氏（なかがわ けいいち）

## リスクの大きさを見極めることが必要

福島第一原子力発電所の事故後、放射線の健康影響については、誤った情報が流布され、約3年半経過した今も、多くの人が避難生活を余儀なくされ、放射線被ばくについて、発がんなどの不安を抱えながら暮らしています。福島第一原発事故による低線量被ばくの健康影響については、正しい情報が伝わっていません。事故そのものの責任を軽視するつもりはありませんが、福島の放射線による健康被害は、国連科学委員会や国内外問わず多くの専門家などの見解、科学的事実からも皆無であるといえます。しかし、放射線を恐れるあまり、避難による健康状態の悪化を招いています。私は、2012年1月に「福島でがんは増えない」という論調の本を出版しましたが、それが“ウソ”になってしまう可能性が高いです。放射線によるがんは間

違いなく増えませんが、健康状態の悪化が10年後、20年後にがんをもたらす可能性があり、福島でがんが増えかけています。さらに、メディアは、がんの増加は被ばくによるものであると誤った報道をする可能性が高いのです。

リスクに対する捉え方や認知には、怒りや不信が大きく影響しますが、世の中には、様々なリスクがあり、その大きさを正確に知らなければ、結局不幸につながるようになります。

例えば、2001年9月11日、米国で発生した同時多発テロの後に自動車による交通事故が急激に増え、通年より約1000名以上、死者数が増えました。飛行機が高層ビルに激突した映像をテレビで繰り返し見ること、多くの人が飛行機に乗らなくなり、結果的に自動車事故による死者数が増加しました。つまり、正しい知識や科学的事実などをもとにリスクの大きさを見極めることが必要です。

## 正しい放射線の知識を知る

メディアが煽っている部分もありますが、放射線を直感的に怖いと感じるのは、相手が分からない、見えないからです。しかし、人間は普通に暮らしている中で、太陽や大地などからの放射線を自然に浴びています。日本人の1年間の自然被ばく量は平均約2.09ミリシーベルトで、世界的に少ないです。例えばフィンランドでは8ミリシーベルト、イランでは町全体で10ミリシーベルトになります。一方、平均的な日本人が、自ら望んで受ける医療被ばくは世界一で、年平均約4ミリシーベルトです。これは、日本がいつでもどこでも医療を受けられる国で、日本の「国民皆保険制度」が充実しているからです。



世界のCTスキャナーの3分の1が日本にあり、CTは1回で約7ミリシーベルト被ばくしますが、病気を見つける能力が高く、日本人の長寿のプラスとなっており、世界一医療被ばくが多い日本人が世界一長生きになっていることを忘れてはいけません。

放射線が人体に作用する影響ですが、放射線そのものが細胞の設計図であるDNA（遺伝子）を切断するのではなく、放射線がつくり出す電子が直接的、あるいは間接的にDNAを切断します。自然界には自然放射線が必ず存在し、我々の体のあらゆるところでDNAは切断され、そして修復（修理）を繰り返しながら、これまで38億年かけて生命は進化し続けてきました。傷を治す仕組みを我々人間は持っています。しかし、広島、長崎のように一瞬に大量の放射線を浴びると、同時多発的にDNAが切断されてしまい、修復機能が追いつかず治せなくなります。被ばくの量は重要ですが、速さも重要です。つまり、広島、長崎のように1000ミリシーベルトを一瞬に浴びると、白血球が減少し、がんも増えますが、100年で1000ミリシーベルト（年10ミリシーベルト）であれば、何の影響もないことから、福島事故と広島、長崎とは様子が違うことを認識しなければなりません。一瞬の被ばくでは、100ミリシーベルト以上になるとがんは増えることとなり、100ミリシーベルトでがん死亡率が0.5%増えます。一方で、100ミリシーベルト以下の部分は、科学的に影響があるとは証明されていません。

放射線を表す単位としてシーベルト（健康への影響の単位）とベクレル（放射能の単位）がありますが、ベクレルという単位に引っ張られてはいけません。「ベクレル」は1秒間に何発放射線が出るかということで、人体への影響とは全く別物です。雨で例えると、雨の降り方がベクレルで、濡れ方がシーベルトです。

## がんという病気を知る

低線量被ばくの問題はがんの問題であり、放射線被ばくを理解するためには、がんという病気を知ることが重要です。低線量被ばくで起こり得る健康被害とは、がんの発生が増えるかもしれないということです。ちなみに、日本は世界一のがん大国であり、2010年のデータによると、国民の半数、男性の64%、女性のほぼ半数が生涯で何らかのがんになります。つまり、日本男子の3人に2人が、がんになる時代であり、これ

は国が豊かになったり、医療が発達したことにより、日本人が長生きになっているのが理由で、がんは一種の老化といえます。また、1個のがん細胞が1センチになるのに大体20年間かかります。一部のメディアで報道されていますが、現段階において福島の事故による放射線被ばくでがんが発見されるわけがなく、早くても10年以上先になります。

がんになる原因の3分の2近くが、喫煙、飲酒、運動不足、塩分過多、野菜不足といった生活習慣によるものです。今、福島県では年間1ミリシーベルトを目指して除染を進めていますが、喫煙は2000ミリシーベルト、飲酒も1000ミリシーベルトと同じくらいがんを増やすことになります。広島、長崎で、がんの増加が確認されたのは被ばく量が100ミリシーベルト以上になった被ばく者であり、福島での被ばく線量は、県民の6割が1ミリシーベルト以下、99.9%以上が10ミリシーベルト以下です。

現在、福島においては、がんを防ごうとして過剰に見える避難を続けることで、生活習慣が軒並み悪くなっており、健康への悪影響が顕著に表れています。がんの原因の3分の2が生活習慣ということを踏まえると、少なくとも10年、20年後、福島では、がんは増えることになるでしょう。

## リスクを客観的に捉え冷静な判断と選択を

あらためて、皆さまにお伝えしたいのは、世の中には様々なリスクがあり、そのリスクの大きさを認識した上で、真実に目を向け、冷静な判断と選択をしてほしいということです。しかし、多くの日本人が放射線を知らないと同時に、がんの病気のこと知りません。メディアの責任も重大ですが、皆さまもある程度のリスクのものさしを常日ごろから持っておく必要があります。わずかな放射線被ばくを恐れ、避難を続けて生活習慣を悪化させることで、結局がんを増やしてしまうといったことを決して招いてはいけません。避難はがんの発症を防ぐことが目的であるにもかかわらず、悲しくも現実にはがんを増やす行動、選択をしているのです。様々なリスクがあるものと心得て、あらゆるリスクを客観的に見比べ、バランスの良い冷静な判断と選択をしていく必要があります。

（文責 主任研究員 金子雄太）

# ～未来都市モデルプロジェクト現地報告～ 「福島医療ケアサービス都市」

経団連は、全国の11都市・地域に、日本企業が有する、医療、農業、環境・エネルギーなどの分野の最先端の技術を結集し、革新的な製品、技術、システムを開発、世界に先駆け社会的課題の解決を目指す「未来都市モデルプロジェクト」を実施しています。経済広報センターは、同プロジェクトの理解促進を図るため、各地で見学会などを開催してきましたが、「福島医療ケアサービス都市」（福島県南会津郡檜枝岐村）プロジェクトは、都市部からの遠隔地である山深い村での事業であるため見学会の開催に適していないことから、当センター事務局が2014年（平成26年）10月28日に現地取材してきました。

当日は、日本電信電話株式会社研究企画部門の是川幸士部長と林真理子課長、東日本電信電話株式会社ビジネス&オフィス営業推進本部福島法人営業部門の石田秀樹主査の案内により、檜枝岐村役場、保健センター、檜枝岐村立檜枝岐小・中学校などを取材しました。

## ■福島医療ケアサービス都市

「福島医療ケアサービス都市」プロジェクトは、医療・介護の分野で、住民の健康増進、健康な高齢者を増やすことで医療費削減を目指すとともに、都市部と同等の医療提供が可能な仕組みづくりやICT（情報通信技術）を活用した魅力ある地域づくりを推進しています。

特に、テレビ電話などの情報端末を利用した遠隔での健康相談「地域健康支援ネットワーク」、ICTを活用し村にしながら遠隔地の専門医から診療支援が受けられる「遠隔サポート診療」、テレビ電話に災害情報や村からのお知らせが届く「光みんなの回覧板」などを2011年度（平成23年度）から2013年度（平成25年度）の3年間にわたって実施しました。

## ■檜枝岐村の背景とプロジェクト

檜枝岐村は、福島県の西南端に位置し、その面積の約98%を林野が占めています。尾瀬国立公園の福島県側の玄関口で、東北最高峰の燧ヶ岳ひうちがたけや会津駒ヶ岳など2000メートル級の山々に囲まれた山村であり、豪雪地帯としても知られています。また、65歳以上が人口の約3割（2010年国勢調査結果）を占め、高齢化が著しい地域です。村内には内科医師が1名常駐する村営の診療所が1カ所ありますが、それ以外の診療には近隣の総合病院、専門病院まで車で往復2～4時間ほどかかります。村としては「若

年層にも魅力的で、高齢者も安心して暮らせる」地域づくりが必要でした。

東日本電信電話では、檜枝岐村の光ネットワーク敷設などの過程で村の現状を把握し、ICTによって村の取り組みへの支援を考え、経団連の「未来都市モデルプロジェクト」実証実験地として檜枝岐村を推薦、本プロジェクトの実施につながりました。

## ■地域健康支援ネットワークの視察

「地域健康支援ネットワーク」の拠点である保健センターは檜枝岐村の村役場に隣接し、ICTの活用により住民の健康を支援しています。保健センターと各家庭はテレビ電話でつながっていて、住民は体重などの健康データを簡単に登録することができます。登録された健康データは住民と保健センターの保健師、診療所の医師で共有されます。

この仕組みを実現するため、簡単に測定できる歩数計、体組成計、血圧計が集会所や家庭に導入され、通信装置のボタンひとつでデータが登録できるよう工夫されています。登録データはグラフ化され、各家庭のテレビ電話のモニ



テレビ電話と血圧計などの計測器



ターで毎日の変化を確認することができます。取材時、健康データを登録した住民に、保健師が直接テレビ電話をかける場面に立ち会うことができました。保健師は住民の顔色、表情や住民の後ろの家の様子などを確認することで総合的な健康状態を把握し、住民は保健師と健康データについて話し合い、アドバイスを受け、自らの健康状態に対する理解を深めていました。血糖値も家庭で簡単に測定でき、データ登録できるシステムが導入され、運用されています。

現在この「地域健康支援ネットワーク」に登録している住民は68人で、檜枝岐村のおよそ1割に当たります。毎日の変化が目に見えて分かるため、体操やウォーキングなどの運動への動機付けにつながり健康意識が高まっています。歩くことで血圧が落ち着いてきた、体重が低下したなど、具体的な健康増進が実際に表れ始めています。「多くの方が歩数計などを使うようになったので、健康データに登録する方をさらに増やしていきたいです。今後は握力を測定し、システム上でデータを管理し筋力の状態、変化についても把握して住民の健康支援をさらに充実させたいと思います」と檜枝岐村役場住民課の橋まゆみ主幹（保健師）は語りました。

## ■ICTのさらなる活用例(ICT教育)の視察

檜枝岐村では、ICTを活用した魅力ある地域づくりの一環として光ネットワークを教育にも活用しています。具体的には学校の教室すべてに電子黒板とデジタル教科書を備えており、小学校3年生以上の児童に1人1台のタブレット端末を配布して授業や自宅学習に使用しています。また、中学校では、学校教師による授業だけでなく、英語と数学の授業の一部を大手通信教育会社に委託し、ICTを使ったライブ授業を実施しています。このライブ授業は一方方向の授業ではなく双方向の授業であり、教師と生徒間のオンデマンドの会話が可



ICTを活用したライブ授業

能です。このようなICTの活用により生徒は勉強意欲を刺激され、授業に対する興味・関心が高まっています。檜枝岐村立檜枝岐小・中学校の石本浩一校長は「確かにICTは教育の幅を広げ、生徒の学習意欲も向上しました。しかしICTはあくまでツールです。従来の紙を使った宿題もテストもあります。教師と生徒が面と向かい合った授業も必要と考え、黒板に教師が自らの手で字を書く授業も行っています。ICTの活用の目的はITリテラシーの向上ではなく、生徒の心を育てる授業や人間としての教育の助けにすることです」と述べました。

## ■プロジェクトの成果と今後

本プロジェクトは、医療ケアサービスとして保健センターを中心に進められました。光ネットワークは各家庭を結んで



プロジェクトの成果を語る星光祥村長

いるため、その活用はテレビ電話による回覧板やICT教育、さらには防犯・防災システムにまで広がっています。星光祥村長は「プロジェクトによる村の一番大きな変化は、住民が目に見えて健康づくりを始めたことです。保健師が健康づくりの教室を始めると、通っている方が仲間を誘います。その映像をテレビ電話で流すと、それを見て歩く人が増えるという流れも生まれ、村民が見る見る健康になってきたという実感があります」と語りました。村長自身も自宅と役場を毎日歩いて健康になった実感があるとした上で、「これまでICTを活用して病気にならない健康な身体づくりに取り組んできましたが、今後は、介護にも活用していきたいです。さらにICTによる見守りをする事で防災にも生かし、より安全な滞在を観光客に提供したいと思います」と話していました。

プロジェクトを進めてきた日本電信電話としても、檜枝岐村における光ネットワークを使ったICTの実証実験の意義は大きいです。『福島医療ケアサービス都市』プロジェクトを通じて、檜枝岐村で先行的なICT活用のトライアルを進

めてきました。檜枝岐村の皆さまの多大なご協力もあり、成功を収めることができました。今後は、さらにサービスの拡張に努めるとともに、このノウハウを活用して予防・介護サービスを

各地で展開していきたいです」と日本電信電話の是川部長は語っていました。

(文責 主任研究員 磯部 勤)

# 経済広報センターニュース

## 日本経済新聞に意見広告を掲載

経済広報センターでは、経済界の主張・考え方について社会の理解促進を図るため、また、当センターの活動を知っていただくため、新聞を活用した広報活動を行っています。2014年12月～2015年2月のタイトルをご紹介します。内容は当センターのホームページ(<http://www.kkc.or.jp/>)でご覧いただけます。

2014年12月10日 「国をあげたイノベーション創出に向けて」  
2015年1月7日 「日本の良さをもっと世界に！」  
2015年2月13日 「経団連の新ビジョン」

## アンケート結果の掲載記事・報道

「社会広聴アンケート」の結果が新聞などで取り上げられました。

### ○第18回 生活者の“企業観”に関するアンケート(2015年2月調査結果発表)

2015年2月10日 フジサンケイビジネスアイ 6面  
「『企業信頼できる』43%、4年ぶり上昇」  
2015年2月10日 SankeiBiz(Web)「『企業信頼できる』43%、4年ぶり上昇」  
2015年2月10日 日刊工業新聞 3面  
「企業を『信頼』43% 4年ぶりに上昇 経済広報センター調査」

### ○健康維持増進に関するアンケート(2014年10月調査結果発表)

2015年2月号 『広報会議』(宣伝会議発行) 124頁  
「『健康経営』で健康保険の医療費抑制を ～『健康維持増進に関する意識・実態調査』を実施～」

## 〈お知らせ〉

『ネットワーク通信』のご感想をお送りいただいた方の中から、抽選で20名様に図書カード(500円分)を、200名様に『月刊 経団連』(経団連発行)を差し上げます。抽選結果は発送(次号『ネットワーク通信』発送の際に同封予定)をもって代えさせていただきます。



## マイナンバーについてシンポジウムと説明会を経団連と共催で開催

マイナンバー制度（社会保障・税番号制度）への円滑な対応を促進するため、2014年11月25日、大阪にて「マイナンバー実務対応シンポジウム」を開催しました。

マイナンバー制度（社会保障・税番号制度）導入まで1年余りとなり、2015年10月にはマイナンバーが市区町村から全国民に通知され、2016年1月から国や地方公共団体などで、社会保障・税・災害対策の分野で利用されます。阿部知明内閣官房社会保障改革担当室参事官が「マイナンバー制度の概要について」を説明。さらに其田真理特定個人情報保護委員会事務局長が「マイナンバーガイドライン入門 ～『特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)』(案)の概要～」として個人情報保護法との関連・相違、およびマイナンバーの取扱いについて個人情報のライフサイクルである情報の取得から廃棄にいたる各プロセスの重要ポイントについて講演しました。

(参加者：企業・団体関係者、社会広聴会員など480名)

また、2014年12月9日に東京で「マイナンバーガイドライン説明会」を開催しました。五十嵐芳彦電子行政推進部会長より開会のあいさつ、向井治紀内閣官房社会保障改革担当室審議官より「マイナンバー制度の概要について」説明がありました。さらに其田真理特定個人情報保護委員会事務局長が「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン」について講演しました。

(参加者：企業・団体関係者、社会広聴会員など700名以上)

## 女性の活躍推進について講演会を開催

2014年11月27日、日本テレビ放送網の宮島香澄報道局解説委員を講師に迎え「人口減の日本と女性の活躍推進」をテーマに、東京で講演会を開催しました。

宮島氏は「日本では少子化による労働力人口の減少を食い止めるため、出生率として1.8が期待されているが、未婚・晩婚化の傾向もあり厳しい状況である。また日本の女性は第一子の出産を機に6割が離職し、希望しても育児と仕事の両立が非常に困難」と現況を説明した上で、「女性の活躍こそが成長戦略につながる」と主張しました。その理由として「介護、医療など成長産業には女性に向く職種が多いことと、共働きで世帯収入が増加することによる消費の拡大がある。女性の活躍推進には、経営者の決断と職場のフォローと、そのフォローについても評価することが重要であり、また、男性の育児への参加は女性の負担や不安を減らし、出生数が向上するのみならず、男性にも女性にも納得感のある働き方にもつながり、社会の活力を生む」と訴えました。

(参加者：企業・団体関係者、社会広聴会員など約60名)

2014年12月3日、岡田晃経済評論家（大阪経済大学客員教授）を講師に迎え、「女性の活躍促進と地方創生」をテーマに、講演会を高松で開催しました。

日本経済はアベノミクスによってデフレから脱却し構造的再生が始まりつつあります。岡田氏は「構造的な経済の再生には、女性の活躍推進および地方創生が必須であり、経済再生と表裏一体の関係にある。女性の活躍推進について企業が取り組むべき対策は、短時間勤務や育児休暇制度の充実だけでなく経営トップの継続的なメッセージの発信や管理職への啓発である。また、地方創生の大きな柱は観光やイベントなどによる地域活性化であり、例えばオリンピック・パラリンピックの効果も十分地方に届くような政策が必要である」と述べました。

(参加者：企業・団体関係者、社会広聴会員など約40名)

## 社会広聴活動 お問い合わせ先

### ●経済広報センター

国内広報部 社会広聴グループ  
電話：03-6741-0021

### ●経済広報センターホームページ

<http://www.kkc.or.jp/>

### ●社会広聴活動のページ 入会・変更のページ

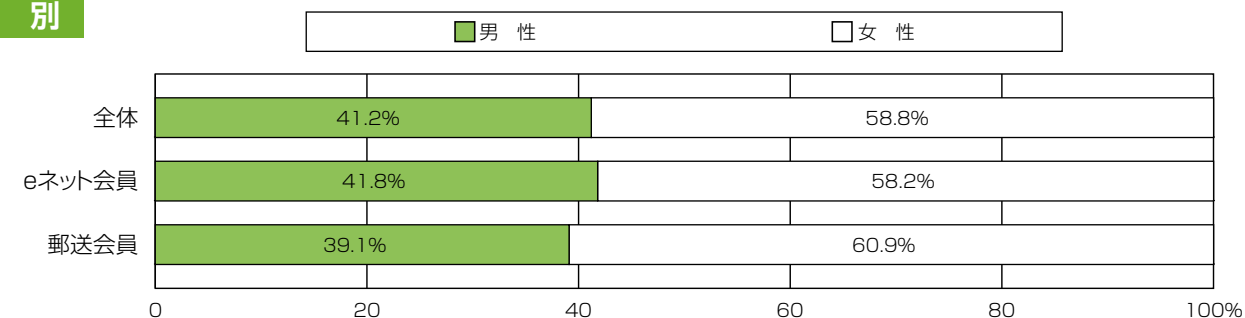
<http://www.kkc.or.jp/society/index.php>

## 社会広聴会員のプロフィール

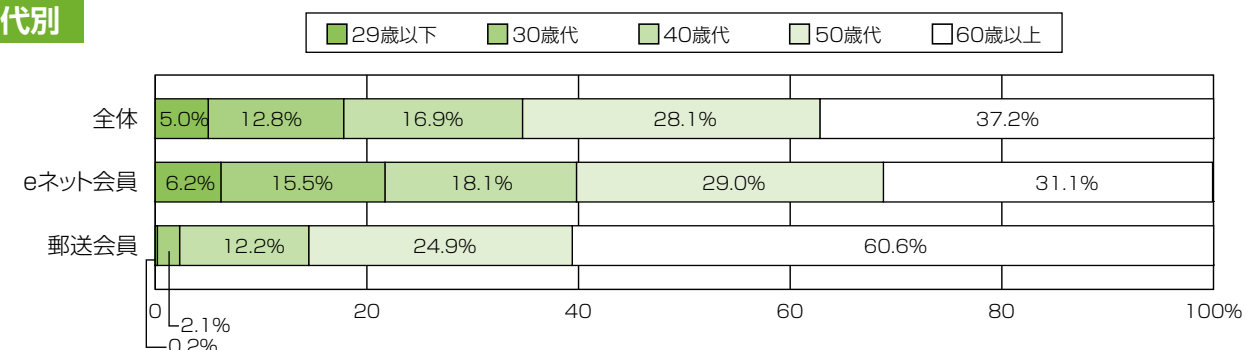
■社会広聴会員 3926人（うち、eネット会員3118人、郵送会員808人）

2015年3月現在

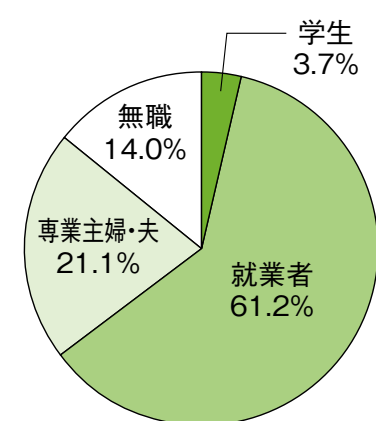
### 性別



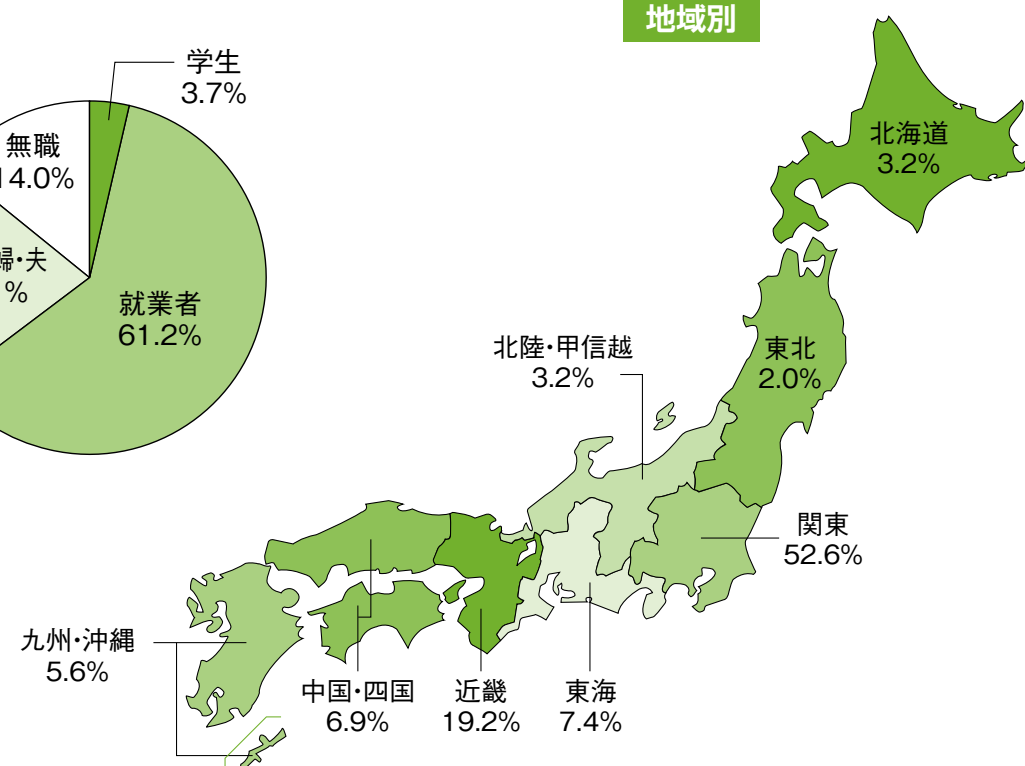
### 年代別



### 職業別



### 地域別



※小数第2位四捨五入

# 「社会広聴会員」からのご意見・ご感想

## 「健康維持増進に関するアンケート」について

- 健康を維持することは、自分や家族のためだけでなく、社会全体のメリットにもつながると感じました。（50代・女性・富山県）
- 会社から案内があると半強制的に定期検診を受けますが、会社などから離れるとつい面倒になりがちです。思い直してまた取り組まねばと感じました。（60代・男性・千葉県）
- 食事や運動に気を付けている割合が年配の方に多く、健康で長生きの秘訣とみました。日ごろからもっと注意を払って生活しなければと思いました。（50代・女性・東京都）
- 経営者として「健康経営」の重要性を再認識させられました。また、セルフメディケーションとの組み合わせをどう実現していくかが、今後の課題になっていくと思います。（50代・男性・北海道）
- 健康意識が高いわりには、適切な情報が提供されていないように感じます。テレビなどの健康情報には偏りがあり、何が正しいのかよく分からないこともあります。（30代・女性・東京都）
- 食事の管理に気を付けている人が多いことに驚きました。（40代・男性・東京都）
- 健康維持増進のために、定期的に医療機関を受診する人が思ったより少ないことに驚きました。（40代・女性・愛知県）
- 世代別の結果に見入りました。上の世代の回答は、これから自分が行く道だと思い、参考になりました。（50代・女性・愛知県）
- あらゆる世代で「健康」に対する意識が高いにもかかわらず、健康診断を受診しない方が予想以上に多く、この点のアンバランスがなぜなのかを考えさせられる結果でした。（50代・男性・神奈川県）
- 健康診断を受診しない理由は「多忙のため時間が無い」が多いことに驚きました。企業の管理職は時間を確保し、業務の一部として受診させるよう徹底してほしいと思います。（30代・女性・埼玉県）

- 年齢とともに健康が失われていくので、企業も年代が上がるほど健康管理をすることで、健康保険組合の医療費が抑えられるのではないのでしょうか。（30代・女性・埼玉県）
- 多くの人が健康を意識していることを知りました。国民健康保険でも無料で健康診断を行ったり、中小企業でも国からの助成で従業員に適切な健康管理が行えるようにしてほしいです。（30代・女性・神奈川県）
- ほとんど毎日、市の健康施設に行き体操をしています。施設の利用率も高く市民が健康維持を目指そうという中、経費がかかる施設をなくそうとする機運があり、この動きは解せません。（80代・男性・東京都）
- 「意見・感想」にある若年層への啓発強化や、健康維持に積極的な人に恩恵があるシステムに同意したいです。努力した者が報われる制度を望みます。（50代・女性・千葉県）

## 「企業と生活者懇談会」について

### 〈サッポロホールディングス〉

- 醸造技術者が仕込む温度やタイミングなどを微妙に調節し、毎回同じ品質のビールを造るのはすごいことだと思いました。（30代・女性・山梨県）
- 産地や生産者が明確になる「協働契約栽培」は、素晴らしい取り組みです。（70代・男性・神奈川県）
- 官営工場としてスタートし、民営化後に国の指令で3社が合併、戦後、独占禁止法の適用でサッポロビールとアサヒビールに分かれた歴史を知り、勉強になりました。（70代・男性・広島県）
- 明治政府がロシアの南下政策への対抗策として外貨を稼ぐためにできた官営工場だったと知り、驚きでした。（80代・男性・香川県）
- ゼロからの出発だったとのことで、ここまで来るのは大変だっただろうと思います。製造技術から地

- 域貢献まで行き届いて立派な会社だと思いました。（60代・女性・福岡県）
- 星のマークが北海道開拓の歴史と関係があったことを知りませんでした。海外では現地生産が多いとのことで、環境にも良く、現地の好みに合わせて造ることは合理的です。（50代・女性・兵庫県）
- 朝の連続ドラマを見るたび、サッポロビールの苦勞が思い出されます。（40代・女性・北海道）

### 〈花王〉

- 花王の「よきモノ」をつくるには、製品のみならず環境問題も視野に入れて認証原料を使うことが分かって良かったです。（50代・男性・福岡県）
- 毎日使っている製品です。購入後の顧客からの意見が、より良い商品開発や生産に生かされていることを知り、納得でした。（80代・女性・広島県）
- 原料調達ガイドラインの改定で森林破壊ゼロを目指す取り組みに感心しました。（70代・女性・長崎県）
- 地域住民として川崎工場の環境の取り組みにエールを送りたいです。京浜工業地帯のイメージ向上に個々の企業努力があることを再認識しました。（70代・男性・神奈川県）
- 花王のファンですが、川崎工場では多摩川よりきれいな水を排水しているとのことで、また印象がアップしました。（50代・女性・三重県）
- 洗剤などを安定して届けるため工場が24時間稼働しながら、安全に対して配慮をしていることに好感が持てます。環境への熱心な取り組みも応援しています。（50代・女性・茨城県）
- 消費者とのコミュニケーションを積極的に取られていることに好感を持ちます。（50代・女性・東京都）

## 生活者の企業施設見学会について

### 〈竹中大工道具館〉

- 日本の大工は道具を約180点も持ち、用途に応じて器用に使いこなし、建物細部を芸術的に造り上げ、素晴らしい技術を持っていたことに驚かされました。（50代・女性・三重県）
- 大工道具の精巧さ、研ぎと使用者の卓越した技量、日本の伝統の道具は、大切に後世に伝えるべきだと思います。（80代・女性・青森県）
- 昨年、新神戸駅前に移転されたことを知りました。

- シンボルの「唐招提寺金堂組物」などに触れ、昔の大工たちの息遣いを感じたくなりました。（60代・女性・滋賀県）
- テレビでもよく伝統工具や技術が取り上げられていますが、代々受け継いでいかなければならないと思います。（60代・女性・大阪府）

## 未来都市モデルプロジェクト現地報告

### 〈沖縄物流拠点都市〉

- 沖縄は基地に依存しているといわれますが、物流の分野で発達し雇用も生まれるのは良いことだと思います。（20代・男性・神奈川県）
- 沖縄が貨物の拠点になることは大賛成です。地方活性化につながると思います。（40代・女性・大阪府）
- 沖縄は立地条件も良く、経済のためにもとても良い事業なので、ますますの発展を期待します。（60代・女性・神奈川県）
- 24時間稼働できるのは素晴らしいと思います。多くのアジアの主要都市がおよそ4時間の圏内に入るとのことで、立地の良さが分かりました。（60代・女性・兵庫県）
- 国際物流のハブとして沖縄が機能していることが、よく理解できました。（30代・男性・兵庫県）
- 深夜の業務のため、事務局にレポートしていただき良かったです。ANAとヤマト運輸の連携が、アジアにおける日本の地位を高める大きなプロジェクトとして発展することを期待しています。（70代・男性・神奈川県）

## ご意見・ご感想

- オリンピックの開催や、マイナンバー制度導入など、大きな変換点であることを感じます。（30代・男性・神奈川県）
- ボランティアへ参加する人が多いことなども、長野県が長寿日本一である一因だという意外なことを知り参考になりました。（60代・男性・埼玉県）
- 経済広報センターニュースが、楽しく見やすくなりました。（70代・女性・神奈川県）
- 参加したアンケートの結果がいろいろなところで使われていることに喜びを感じます。「意見・感想」では、自分と違った方向からものを見ることの大切さを学んでいます。（60代・女性・神奈川県）



# 表紙のことは

今回のアンケートでは、企業に対する信頼度が4年ぶりに上昇しました。企業の積極的な情報開示や、不測の事態に真摯に対応する姿勢などが好感されています。企業が開示する様々な情報の受け手である生活者には、ますますグローバルに展開する日本企業の活躍や、日々進化する技術や製品について、内容を理解して考え、そして評価する力が求められており、企業と生活者はお互いにたゆまぬ努力が必要であることを感じさせられます。信頼度の上昇が今年にとどまらず来年以降も続き、良い循環の形で企業と生活者がともに明るい日本経済を築いていけることを願いたいものです。



## 大野 祥子(前列左)

書類などを書く際、「黒か青」とインクの色を指定されることがあります。青インクも可の理由は、ボールペンが普及する前によく使われていたインクがブルーブラック(濃い藍色)だったことに由来します(諸説あります)。黒でも青でもない、ブルーブラックのボールペンを持ち歩く今日このごろです。

## 杉山 佳子(後列左から2番目)

「企業と生活者懇談会」で日清製粉福岡工場に行きました。小麦粉と一口で言っても多くの種類があること、パンやお菓子など用途に合う粉を使う重要性を知り、とても勉強になりました。ホームベーカリー任せでパンを焼いていましたが、手作りで色々なパンやクッキーを作ることが楽しくなり、あらためて小麦粉の用途の広さや奥深さを感じています。

## 鈴木 恵理(前列右)

今回で事務局便りを卒業することとなりました。アンケートや講演会、「企業と生活者懇談会」などを通じて皆さまのご意見を伺い、様々なものの見方や考え方を学ぶことができました。短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。

## 磯部 勤(後列中央)

南の島で1台の車を長く運転しているとある日「バサバサ」という音が聞こえ始めます。止まると音がしなくなるので、エンジンでも故障したかなーと思っていると足元がスースーするので、下に目をやると地面が見えています。そうです。足元の鋼板が錆びて剥がれて地面を擦っていたのです。海の塩の仕業です。車で異音がするとつい地面が見えてないか確認する癖がついてしまいました。

## 高橋 美香(後列右端)

4月になると、ここ大手町では新入社員をたくさん見掛けるようになります。いつも、なぜ新入社員(らしい)と分かるのか不思議です。若さもありますが、表情が違うのでしょうか。希望、期待、不安、いろいろな思いが表れているのかもしれませんが。あこのころの自分を思い出し、新たな気持ちで新年度を迎えたいと思います。

## 伊藤 貴範(後列右から2番目)

1年ぶりのスキーで転倒し、胸から地面に着きました。次の日、左の肋骨周辺が痛み、「折れたのでしょうか」「ヒビぐらい入っていますかね」と聞いて回りましたが、骨折ならそんなに元気に話しているはずがないという返答ばかりでした。筋肉痛に大げさに驚いてしまっているようです。日ごろの運動が大切です。

## 佐藤 亜矢子(後列左端)

昨年秋の皆既月食は、記憶に新しいところですが、4月早々にも日本各地で観測できるようですね。赤く揺らぐ月、淡いピンク色に輝く桜、夜桜を照らす皆既月食を楽しめる地域も……。幻想的な風景を想像するだけで気持ちが高揚します。様々な自然現象に魅了される一日、皆さまもお見逃しなく。

社会広聴活動レポート

ネットワーク通信

2015 No.62 春号



ネットワーク通信は  
再生紙を使用しております。

発行／ 一般財団法人 経済広報センター  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階  
TEL:03-6741-0021 FAX:03-6741-0022

発行日／ 2015年3月26日

<http://www.kkc.or.jp/>